

# キルギス共和国

---

## 貧困プロフィール

2012年3月

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
12-129

## 目次

I. キルギスにおける貧困の状況の概観.....	1
1. キルギスの貧困の状況の概観.....	1
II. キルギスの貧困状況と政策枠組み .....	2
1. 中期開発プログラムにおける貧困削減政策 .....	2
2. 政府の社会的保護（Social Protection）政策と貧困削減.....	3
III. 所得貧困に基づく分析 .....	5
1. 貧困線とデータ .....	5
2. 貧困の状況—貧困率の分析 .....	6
3. 貧困ギャップ率の分析.....	8
4. 格差の分析—ジニ係数・所得階層の分析 .....	9
IV. 所得貧困以外による分析 .....	12
1. HDI による経年変化の分析と地域国際比較 .....	12
2. MDG 指標分析.....	13
3. 食糧安全保障・脆弱性による分析.....	16
V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析 .....	19
1. 社会的属性・特性による特長.....	19
(1) 大家族の高い貧困率 .....	19
(2) 女性世帯主の世帯と貧困 .....	20
(3) 国内移民労働.....	21
(4) 雇用と貧困 .....	22
(5) 教育水準と貧困 .....	23
(6) GDP、総消費、送金の増加と貧困 .....	25
2. 社会的に排除されているグループの存在と貧困指標との関係.....	26
(1) 地方・農村での貧困問題 .....	26
(2) 民族間の貧困問題.....	30
VI. 貧困に影響を与えている要因およびリスク.....	32
1. 政治的な混乱.....	32
2. 市場経済化の進展とマクロ経済の推移.....	33
3. 近隣経済（ロシア等 CIS）の景気後退による送金の減少 .....	34
4. 穀物価格の上昇 .....	35
5. 国家財政 .....	36
6. 人口学的リスク .....	36
VII. JICA の優先課題における貧困 .....	39
1. 地方幹線道路・輸送インフラ .....	39
2. 農業・農村開発 .....	40

3. 市場経済化のための人材育成.....	43
添付 1. 参考文献リスト .....	45
添付 2. 主要な情報源リスト .....	48

#### 図表・地図目次

図表 1 主要指標一覧.....	v
図表 2 貧困率 2009 年（全国および州別） .....	vii
図表 3 貧困ギャップ率・二乗貧困率（2009 年） .....	vii
図表 4 州別ジニ係数（2007-2009 年） .....	viii
図表 5 HDI 指標(1993 年 - 2007 年).....	ix
図表 6 州別 HDI 指標の推移（1995 年 - 2007 年） .....	ix
図表 7 HDI 指標の推移（1980 年 - 2010 年） .....	x
図表 8 MDG 指標（2009 年） .....	xi
図表 9 GDP に占める社会給付の推移（2005 年-2010 年） .....	4
図表 10 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率(2009 年) .....	5
図表 11 貧困率の推移（2006 年 - 2009 年） .....	7
図表 12 州別の貧困の状況（2009 年） .....	8
図表 13 貧困ギャップ率の推移（2006 年-2009 年） .....	8
図表 14 ジニ係数（国、都市部、地方）の推移（2006 年-2009 年） .....	9
図表 15 ジニ係数の推移（2006 年-2009 年） .....	10
図表 16 所得階層別の平均消費と貧困線の関係（2007 年-2009 年） .....	10
図表 17 階層別一人あたり消費の実質成長率（2007 年-2009 年） .....	11
図表 18 キルギス人間開発指標の推移（1995 年 - 2011 年） .....	12
図表 19 キルギス人間開発指標の推移（1990-2011） .....	12
図表 20 州別 HDI 指標の変遷(1995 年-2007 年).....	13
図表 21 州別 HDI 指標（2007 年） .....	13
図表 22 キルギス MDG 指標の推移（1995 年-2011 年）（再掲） .....	14
図表 23 食糧不安の分布状況（2011 年） .....	17
図表 24 食糧不安の分布状況の推移（2011 年） .....	18
図表 25 食糧安全保障の状況（2006 年 - 2008 年 1Q） .....	18
図表 26 世帯人数と貧困の関係(2009 年) .....	19
図表 27 世帯主の年齢と貧困の関係（2009 年） .....	20
図表 28 子供の数と貧困の関係（2009 年） .....	20
図表 29 世帯主の性別と貧困の関係（2009 年） .....	21
図表 30 国内移動した世帯主の消費階層別の割合（2009 年） .....	22
図表 31 貧困状況別の就職状況（2009 年） .....	22

図表 32	世帯主の雇用形態と貧困の関係 (2009 年)	23
図表 33	世帯主の教育水準と貧困の関係 (2009 年)	24
図表 34	世帯主の教育水準と所得階層の関係 (2009 年)	25
図表 35	就学率および識字率(2005 年-2009 年)	25
図表 36	GDP、総消費、送金の増加と貧困の関係 (2006 年 - 2009 年)	26
図表 37	貧困率の推移 (2006 年-2009 年) (再掲)	27
図表 38	貧困ギャップ率の推移 (2006 年-2009 年) (再掲)	27
図表 39	平地と山岳部の貧困の分布 (2009 年)	28
図表 40	地方別 MDGs 指標の状況 (2008 年)	28
図表 41	民族間の失業の分布 (2003 年)	30
図表 42	中央アジアにおける主要な民族グループの分布 (1993 年)	31
図表 43	GDP、総消費、送金の増加と貧困の関係(2009 年) (再掲)	34
図表 44	移民労働、送金と食糧安全保障 2011 年 (全国、州別)	35
図表 45	人口ピラミッド (1981,2003,2020 年)	37
図表 46	失業率の推移 (2006 年-2009 年)	37
図表 47	若年層の失業状況 (2003 年)	38
図表 48	主要道路と世界銀行の支援 (2011 年)	40
図表 49	食糧不安の分布状況 (2011 年) (再掲)	41
図表 50	都市部と農村部の貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率 (2009 年) (再掲)	42
図表 51	現金収入を得ている世帯メンバーの数と食糧安全保障の状況 (2011 年)	43
地図 1	キルギスタン行政区画	xviii
地図 2	貧困率の分布 (2005 年)	xix

#### 略語表

CDS	Country Development Strategy	国家開発計画
EFSA	Emergency Food Security Assessment	緊急食糧安全保障評価
HDI	Human Development Index	人間開発指標
HDR	Human Development Report	人間開発報告書
KIHS	Kyrgyz Integrated Household Survey	キルギス総合的家計調査
NSC	National Statistical Committee	国家統計局
MDG	Millenium Development Goals	ミレニアム開発目標
UN	United Nations	国際連合 (国連)
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
VAM	Valunerability Analaysis and Mapping	脆弱性分析・地図

WB	World Bank	世界銀行（世銀）
WFP	World Food Programme	世界食糧計画
WTO	World Trade Organization	世界貿易機関

図表 1 主要指標一覧<sup>1</sup>

2012年1月版

主要指標一覧【キルギス】						
	指標項目	2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の地域平均値
社会	地表面積(1000km <sup>2</sup> )	200	200	200	200	n.a.
	人口(百万人)	4.9	5.3	5.3	5.4	890.2
	人口増加率(%)	1.0	0.8	0.8	0.8	0.4
	出生時平均余命(歳)	69	68	69	n.a.	n.a.
	妊産婦死亡率(/10万人)	81	81	n.a.	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(/1000人)	44.1	34.9	34.0	32.8	11.8
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	2,396	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	96.6	98.2	98.3	100.0	n.a.
	初等教育総就学率(女)(%)	95.1	97.9	98.3	99.1	n.a.
	中等教育総就学率(男)(%)	83.1	85.6	84.4	84.5	n.a.
	中等教育総就学率(女)(%)	85.5	85.5	84.4	83.5	n.a.
	高等教育総就学率(%)	34.8	50.8	48.8	n.a.	n.a.
	成人識字率(15歳以上の人口の内:%)	n.a.	n.a.	99.2	n.a.	n.a.
	絶対的貧困水準(1日1.25\$以下の人口比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
失業率(%)	7.5	8.2	n.a.	n.a.	n.a.	
経済	GDP(百万USDドル)	1,370	5,140	4,690	4,616	20,053,412
	一人当たりGNI(USDドル)	280	780	870	840	23,335
	実質GDP成長率(%)	5.4	8.4	2.9	-1.4	2.3
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	36.7	27.0	21.1	20.7	1.9
	工業	31.4	23.5	26.6	28.0	26.4
	サービス業	31.9	49.4	52.4	51.3	71.6
	産業別成長率(%)					
	農業	2.7	0.9	6.7	-2.8	-0.7
	工業	10.2	10.7	-0.3	0.6	5.2
	サービス業	5.8	13.7	1.1	-0.9	1.9
	総資本形成率(対GDP比:%)	20.0	28.9	27.3	28.4	18.8
	貯蓄率(対GDP比:%)	14.3	-10.1	3.3	-3.0	20.1
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	18.7	24.5	6.9	8.0	n.a.
	財政収支(対GDP比:%)	-2.9	0.0	-1.3	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	114.5	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	-5.7	-39.0	-24.0	-31.4	1.3
	経常収支(対GDP比:%)	-5.6	-13.6	-2.2	-8.3	n.a.
外国直接投資純流入額(百万ドル)	-7	377	190	438	-136,463	
対外債務残高(対GNI比:%)	141.9	70.8	88.6	89.2	n.a.	
DSR(対外債務返済比率:%)	29.4	11.9	10.4	21.9	n.a.	
総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	4.2	2.9	4.9	4.8	6.3	
総外貨準備高(百万ドル)	262	1,225	1,584	1,720	2,196,474	
名目対ドル為替レート*2	47.70	36.57	42.90	45.96	n.a.	
(Soms per US Dollar: Period Average)						
政治	政治体制:共和制。大統領が最高権力者					
憲法	憲法:2010年7月2日発効					
元首	元首:大統領。アルマス・ヘク・アタムバエフ(Almazbek ATAMBAEV)。2011年12月1日就任					
議会	議会:一院制。120議席。任期5年					
内閣	内閣:首相 オムルベク・ババノフ(Omurbek BABANOV)					

出典 World Development Indicators Online (December 2011) World Bank

\*1 FAO Food Balance Sheets (June 2010) FAOSTAT Homepage

\*2 International Financial Statistics Online (January 2012) IMF

\*3 世界年鑑 2011 共同通信社、各国・地域情 2011年12月 外務省Homepage、The World Factbook 2011年12月 CIA Homepage

注 ●地域平均値は欧州・中央アジアの数値(地域分類は別添参照)

●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2009年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

●妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値

●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

<sup>1</sup> JICA 研究所 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html> (2011/12/14 アクセス)

## 中央政府歳入・歳出【キルギス】

	2007年	2008年	2009年	2009年		対ドルレート
	(百万ソム)	(百万ソム)	(百万ソム)	(百万US\$)*	対GDP比**	
歳入	32,670	41,298	48,006	1,119	23.9%	42.90
租税収入	23,266	31,035	30,256	705	15.0%	
社会保障	0	0	0	0	0.0%	
贈与受取	3,264	3,456	10,201	238	5.1%	
その他	6,140	6,807	7,549	176	3.8%	
歳出	25,666	31,500	37,854	882	18.8%	GDP(現地通貨) 201,223
人件費	6,845	8,691	10,931	255	5.4%	
財貨・サービス	6,371	9,080	11,349	265	5.6%	
固定資本減耗	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
利払い	849	1,348	1,592	37	0.8%	
補助金	748	1,053	1,099	26	0.5%	
贈与支払	4,410	6,046	6,515	152	3.2%	
扶助費	3,561	4,204	5,147	120	2.6%	
その他	2,882	1,077	1,220	28	0.6%	
非金融資産の純増	9,155	9,869	12,806	298	6.4%	
財政収支	-2,151	-71	-2,654	-62	-1.3%	

## 総支出内訳(目的別分類)【キルギス】

	2007年	2008年	2009年		2009年	
	(百万ソム)	(百万ソム)	(百万ソム)	内訳	(百万US\$)*	対GDP比**
総支出	34,821	41,368	50,660	100.0%	1,181	25.2%
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
農林水産業	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
エネルギー	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
鉱工業・建設業	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
運輸	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
通信	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.

注: 総支出内訳における総支出には非金融資産の純増を含む

会計年度は1月～12月

\*: 対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) January 2012 IMF

\*\*: GDPの出典はThe World Economic Outlook September 2011 IMF Homepage

出典: Government Finance Statistics (CD-ROM) September 2011 IMF

## JICAの対キルギス技術協力

通貨単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
億円	7.58	7.05	7.12	9.87	7.67	110.90
百万ドル	6.51	5.98	6.89	10.55	8.74	

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)、また対ドル換算レートはOECD Homepageによる

出典: JICA技術協力実績

## 対キルギスODA実績

## 《我が国》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2005年	1.30	9.01	10.64	20.95
2006年	8.60	0.71	7.91	17.22
2007年	2.18	5.53	7.98	15.68
2008年	2.17	2.24	7.94	12.35
2009年	2.07	5.54	10.14	17.75
累計	253.67	99.45	109.70	462.83

## 《DAC諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2006年	米国 50.32	ドイツ 17.88	日本 17.22	スイス 16.54	英国 11.19	17.22	123.55
2007年	米国 39.82	ドイツ 25.02	日本 15.68	英国 12.95	スイス 10.56	15.68	118.65
2008年	米国 63.63	ドイツ 21.32	英国 13.71	日本 12.35	スイス 10.87	12.35	141.72

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2006年	ADB 40.49	IDA 29.60	CEC 11.98	GFATM 3.68	UNDP 3.45	-17.60	71.60
2007年	IDA 39.76	ADB 26.48	CEC 19.88	GFATM 7.79	UNDP 3.37	-13.17	84.11
2008年	ADB 41.00	CEC 33.44	IDA 27.96	IMF 18.97	GFATM 13.10	25.24	159.71

注: 年の区切りは1月～12月の暦年。DAC集計ベース

出典: ODA国別データベース 外務省

図表 2 貧困率 2009 年（全国および州別）<sup>2</sup>

Table 15: Growth and Redistribution Decomposition of Poverty Changes

	Change in Incidence of Poverty					
	2008	2009	Actual change	Growth	Redistribution	Interaction
Total	31.71	31.75	0.04	-5.93	8.54	-2.57
Urban	22.64	22.04	-0.59	-5.29	4.24	0.45
Rural	36.80	37.06	0.26	-6.27	10.76	-4.22

Source: Staff calculations based on KIHS 2008-09.

Table 12: Poverty Trends, by Oblasts, 2006-09

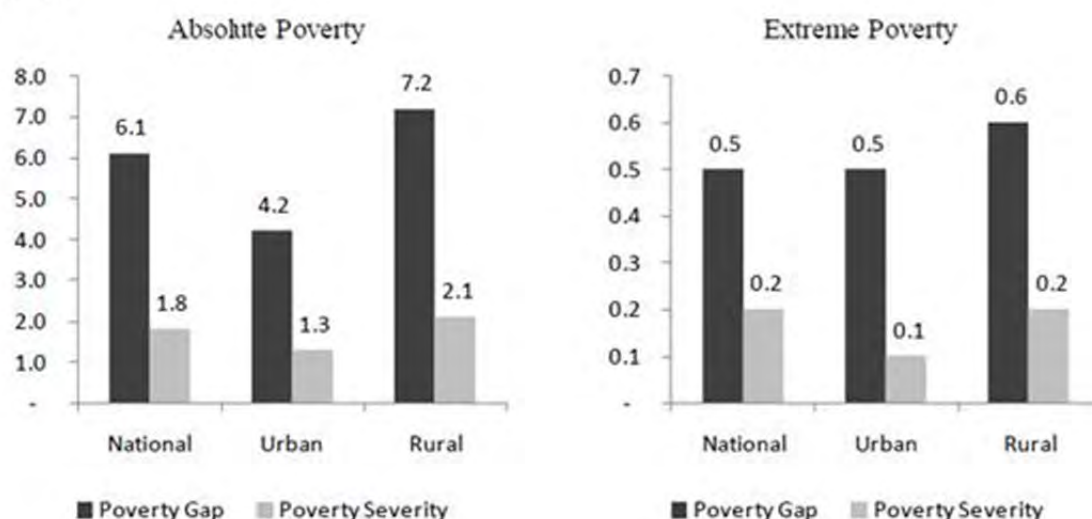
	Absolute Poverty					Extreme Poverty				
	2006	2007	2008	2009	Change 2006-09	2006	2007	2008	2009	Change 2006-09
Bishkek	22	14	15	14	-8	0.6	0.6	2	3	3
Issyk-Kul	64	58	52	46	-18	15	13	17	7	-8
Jalal-Abad	80	78	40	37	-43	30	22	10	0.5	-29
Naryn	75	56	43	44	-30	23	23	12	10	-12
Batken	73	67	21	31	-42	28	14	4	6	-22
Osh	74	72	38	38	-37	20	13	5	2	-19
Talas	61	52	43	33	-27	14	15	5	3	-11
Chu	41	30	16	21	-20	7	2	2	2	-5

Source: Staff calculations based on KIHS 2006-09.

図表 3 貧困ギャップ率・二乗貧困率（2009 年）<sup>3</sup>

Figure 8: Absolute and Extreme Poverty Gap and Severity

percent



Source: Staff calculations based on KIHS 2009.

<sup>2</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.36.

<sup>3</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.9



図表 4 州別ジニ係数（2007-2009 年）<sup>4</sup>

Table 13: Gini coefficient (Per Capita Consumption) by Oblast, 2007-09

Gini coefficient by Per Capita Consumption				
	2007	2008	2009	Change 2007-09
Bishkek	24.9	24.8	24.7	-0.2
Issyk-Kul	24.1	28.4	25.2	1.1
Jalal-Abad	18.8	22	19.7	0.9
Naryn	26.6	24.8	24.4	-2.2
Batken	24.1	20.9	23.4	-0.7
Osh	21.6	23.1	25.1	3.5
Talas	29.5	22.2	23.4	-6.1
Chui	25.8	25.7	25.6	-0.2

Source: Staff calculations based on KHS 2006-09.

<sup>4</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.39.

図表 5 HDI 指標(1993年 - 2007年)<sup>5</sup>

Table 1.1 Components of the HDI

Indicator	1993	1995	2000	2003	2004	2005	2006	2007
Estimated life expectancy at birth (years) <sup>1</sup>	67.3	66.0	68.5	68.2	68.2	67.9	67.7	67.9
Adult literacy (%)	97.3	97.3	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7
Percentage people aged 7 to 24 who are enrolled in elementary, secondary, and higher education institutions.	66	63	71	71	71	71	71	72
Real GDP per capita (PPP 2005 \$)	1,282	1,000	1,332	1,558	1,697	1,728	1,813	1,980
Life Expectancy Index	0.705	0.683	0.725	0.720	0.720	0.715	0.712	0.715
Education Index	0.867	0.859	0.895	0.896	0.895	0.896	0.895	0.897
Income Index	0.426	0.384	0.432	0.458	0.473	0.476	0.484	0.498
<b>Human Development Index</b>	<b>0.666</b>	<b>0.642</b>	<b>0.684</b>	<b>0.692</b>	<b>0.696</b>	<b>0.696</b>	<b>0.697</b>	<b>0.704</b>

図表 6 州別 HDI 指標の推移 (1995年 - 2007年)

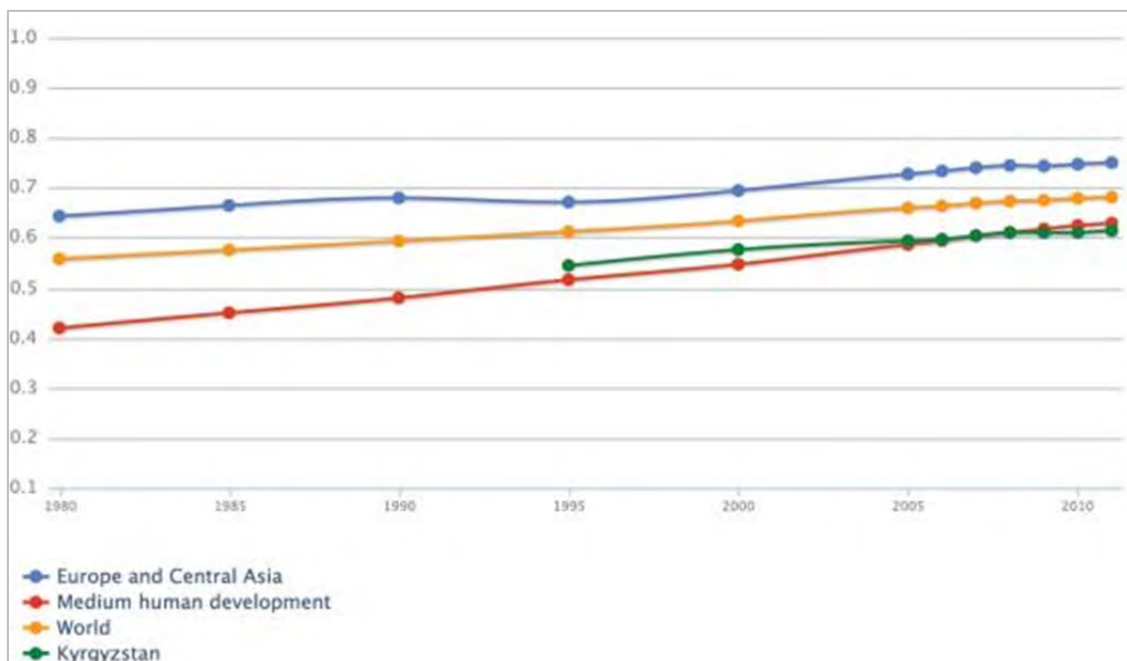
Table 1.2. HDI Dynamics

	1995	2000	2004	2005	2006	2007
<b>Kyrgyz Republic</b>	<b>0.642</b>	<b>0.684</b>	<b>0.696</b>	<b>0.696</b>	<b>0.697</b>	<b>0.704</b>
Batken Province	-	0.638	0.648	0.638	0.638	0.650
Jalal-Abad Province	0.633	0.688	0.667	0.661	0.663	0.667
Issyk-Kul Province	0.646	0.718	0.708	0.697	0.683	0.693
Naryn Province	0.638	0.677	0.658	0.656	0.661	0.666
Osh Province (including Osh City)	0.621	0.654	0.641	0.641	0.665	0.667
Talas Province	0.641	0.678	0.677	0.675	0.685	0.685
Chui Province	0.660	0.681	0.691	0.687	0.682	0.683
Bishkek Province	0.664	0.719	0.749	0.762	0.812	0.828

In 2007, not a single province had an HDI over 0.700. The lowest HDIs – in Batken, Naryn and Osh provinces – were offset by Bishkek's HDI of 0.828, to reach a national average of 0.704.

<sup>5</sup> UNDP (2009,2010), Kyrgyzstan National Human Development Report, Successful Youth - Successful Country, pp.7-9  
[http://hdr.undp.org/xmlsearch/reportSearch?y=\\*%&c=n%3AKyrgyzstan&t=\\*%&lang=en&k=&orderby=year](http://hdr.undp.org/xmlsearch/reportSearch?y=*%&c=n%3AKyrgyzstan&t=*%&lang=en&k=&orderby=year)  
 (2011/12/14 アクセス)

図表 7 HDI 指標の推移 (1980年 - 2010年)



図表 8 MDG 指標 (2009 年) <sup>6</sup>

MDG Indicator monitoring and MDG Indicator analogs in the CDS

Baseline value	Millennium Development Goals			Country Development Strategy 2010	Country Development Strategy 2011 (draft matrix)
	Current value (2009)	Target value (2015)	Target value (2010)	Target value (2011)	Target value (2011)
<b>Goal 1 Radical reduction of extreme poverty</b>					
1. Extreme poverty level, %	24,7 (2001)	3,1	12,9	Reduction of general poverty level to 29.8%	Poverty level
2. Percent of children under 6 who are underweight	7,9 (1998)	4,6	3	-	-
3. Percent of population consuming less than 2,100 calories per day	57 (1998)	40,7	27,7	-	-
<b>Goal 2 Achievement of universal secondary education</b>					
4. Literacy rate among boys aged 15-24, %	99,5 (1989)	99,7	100	99,5	-
5. Literacy rate among girls aged 15-24, %	99,6 (1989)	99,8	100	99,5	-
6. Percent of boys of primary school age who are pupils	91,7 (1990)	97,1	100	99,5	Coverage of boys with basic secondary education (grades 1-9): 97%
7. Percent of girls of primary school age who are pupils	92,3 (1990)	96,3	100	99,5	Coverage of girls with basic secondary education (grades 1-9): 97%
<b>Goal 3 Promote gender equality and empower women</b>					
8. Percent of university students who are women	51,2 (1990)	55	50,0	-	Additional indicator: percent of students in universities and specialized high schools studying engineering, technical trades, and education who are women: 30%
9. Women's salaries as a percentage of men's salaries	73,0 (1996)	63,9	100,0	Additional indicator: reduced gap between the salaries of men and women	Women's salaries as a percentage of men's salaries: 73%
10. Percent of economically active population who are women	46,5 (1996)	43 (2008)	50,0	-	Percent of economically active population who are women: 46.5%
11. Percent of deputies to the Jogorku Kenesh who are women	6,7 (2001)	31,1 (2008)	30,0	Increased representation of women among deputies of all levels: 30%	Percent of people at the decision-making level who are women: 30%

<sup>6</sup> UNDP (2010) Second MDG Progress Report in the Kyrgyz Republic (revised), pp.134-140.  
<http://www.undp.kg/en/resources/e-library/article/28-e-library/1405-vtoroj-otchet-o-progresse-v-dostijeni-crt-v-kr-dopolennyj> (2011/12/14 アクセス)

<b>Goal 4 Reduce child mortality</b>					
12. Under-five child mortality rate per 1,000 live births	41,3 (1990)	29,3	10,4	38,3	Under-five child mortality rate: 0.8% annual decrease
13. Infant mortality rate per 1,000 live births	30 (1990)	25	8,5	36,9	Infant mortality rate: 0.6% annual decrease
14. Percent of children vaccinated against measles	95 (1990)	98,9	100	Coverage with immunizations: 99%	Coverage of children under two with all types of vaccinations: 98%
<b>Goal 5 Improve maternal health</b>					
15. Maternal mortality rate per 100,000 live births	62,9 (1990)	63,5	15,7	72	Maternal mortality: 50%
16. Percent of births attended by qualified personnel	98,9 (1990)	98,5	100	-	-
17. Percent of pregnant women who have anemia	25,2 (1990)	54,4	25	-	-
<b>Goal 6 Combat HIV/AIDS, malaria and other diseases</b>					
18. Percent annual growth in number of newly detected cases of HIV/AIDS	-	42,9	Not more than 20% per annum	Not more than 20% per annum	-
19. Incidence of malaria, cases per 100,000	0,02 (1990)	0,1	0	Less than 5	-
20. Incidence of tuberculosis, cases per 100,000	52,1 (1990)	103,9	52	111,3	100,7
21. Tuberculosis mortality rates, cases per 100,000	6,7 (1990)	9,0 (2008)	7	-	9,5
22. Percent of cases of tuberculosis cases cured within the DOTS program	85,4 (1998)	84,5 (2008)	increase	-	-
23. Number of drug users	1182 (1990)	10417	1200	-	-
24. Incidence of brucellosis, cases per 100,000	12,8 (1990)	67,4	12,8	-	-
<b>Goal 7 Ensure environmental sustainability</b>					
25. Percent of country that is forested	4,25 (2001)	4,32 (2008)	6	6	-
26. Percent of country in specially protected territories	4,1 (1990)	6,3 (2008)	10	6	Percent of country in specially protected territories: 5.5
27. Percent of population with sustainable access to safe drinking water	81,3 (1996)	90,4 (2008)	90	-	Additional indicator: availability of water supply systems in settlements
28. Percent of population with sustainable access to sewerage	24 (1996)	23,5 (2008)	40	-	

29. Greenhouse gases emissions, tons of CO <sub>2</sub> equivalent per capita	7,71 (1991)	2,19 (2005)	3,14	Reduction of total volume of air polluting emissions by 8.5% from 2005 level	Complex air pollution index in Bishkek: 9.0
30. Consumption of ozone-depleting substances, grams per capita	32 (1991)	0,96 (2007)	16		-
31. Emissions of CO <sub>2</sub> , tons per capita	6,19 (1991)	1,58 (2005)	2,38		-
<b>Goal 8 Develop a global partnership for development</b>					
32. External debt volume as a percentage of GDP	94,2 (2001)	44,6 (2008)	20	-	Level of state debt – not more than 48
33. Cost of external debt service as a percentage of value of exports of goods and services	12,8	3,2 (2008)	8	Cost of external debt service as a percent of national budget revenues: 8.57%; as a percent of GDP: 1.96%	External debt servicing level – not more than 15
34. Level of unemployment among the youth, %	20,1 (2002)	14,8 (2008)	-	-	-
35. Number of telephones per 1,000 people	85 (2001)	738 (2008)	-	Installation of telephones in settlements without them: 500-550 settlements	Installation of telephones in settlements without them: 526
36. Number of employees per 1,000 who use computers at work	105,6 (2003)	193,8 (2007)	-	-	-

### Assessment of progress in MDG achievement in the Kyrgyz Republic\*

Goals and indicators	Target value	Assessment of progress **
<b>Goal 1 Radical reduction of extreme poverty</b>		Successful
Extreme poverty level, %	12,9	Achieved
Percent of children under 6 who are underweight	3	Hardly possible
Percent of population consuming less than 2,100 calories per day	27,7	Hardly possible
<b>Goal 2 Achievement of universal secondary education</b>		Hardly possible
Literacy rate among boys aged 15-24 years, %	100	Hardly possible
Literacy rate among girls aged 15-24, %	100	Hardly possible
Percent of boys of primary school age who are pupils	100	Successful
Percent of girls of primary school age who are pupils	100	Possible
<b>Goal 3 Promote gender equality and empower women</b>		Hardly possible
Percent of university students who are women	50	Hardly possible
Women's salaries as a percentage of men's salaries	100	Hardly possible
Percent of economically active population who are women	50	Hardly possible
Percent of deputies to the Jogorku Kenesh who are women	30	Successful
<b>Goal 4 Reduce child mortality</b>		Hardly possible
Under-five child mortality rate per 1,000 live births	10,4	Hardly possible
Infant mortality rate per 1,000 live births	8,5	Hardly possible
Percent of children vaccinated against measles	100	Successful
<b>Goal 5 Improve maternal health</b>		Hardly possible
Maternal mortality rate per 100,000 live births	15,7	Hardly possible
Percent of births attended by qualified personnel	100	Hardly possible
Percent of pregnant women who have anemia	25	Hardly possible
<b>Goal 6 Combat HIV/AIDS, malaria and other diseases</b>		Hardly possible
Percent annual growth in number of newly detected cases of HIV/AIDS	...	-
Incidence of malaria, cases per 100,000	0	Hardly possible
Incidence of tuberculosis, cases per 100,000	52	Hardly possible
Tuberculosis mortality rates, cases per 100,000	7	Possible, provided the downward trend begun in 2001 continues
Percent of cases of tuberculosis cases cured within the DOTS program	Увеличение	Hardly possible
Number of drug users	1200	Hardly possible
Incidence of brucellosis, cases per 100,000	12,8	Hardly possible

<b>Goal 7 Ensure environmental sustainability</b>		Possible****
Percent of country that is forested	6	Hardly possible
Percent of country in specially protected territories	10	Hardly possible
Percent of population with sustainable access to safe drinking water	90	Achieved****
Percent of population with sustainable access to sewerage	40	Hardly possible
Greenhouse gas emissions, tons of CO2 equivalent per capita	3,14	Achieved
Consumption of ozone-depleting substances, grams per capita	16	Achieved
Emissions of CO <sub>2</sub> , tons per capita	2,4	Achieved
<b>Goal 8 Develop a global partnership for development</b>		****
External debt volume as a percentage of GDP	Develop a global partnership for development	Successful
Cost of external debt service as a percentage of value of exports of goods and services	8	Achieved
Level of unemployment among the youth, %	-	-
Number of telephones per 1,000 people	-	-
Number of employees per 1,000 who use computers at work	-	-

- \* In order to assess the progress of the Kyrgyz Republic in achieving the MDGs, the authors used the methodology proposed in the Regional Report on the Millennium Development Goals in the countries of Europe and CIS. "National Millennium Development Goals – platform for action," UNDP Regional office for Europe and CIS, 2006, p. 125. But with respect to the "tuberculosis mortality rate" indicator, the recent positive trend is taken into account.
- \*\* The result of the assessment of progress is the evaluation of the time lag to reach the target value – this time lag is defined as the difference in time remaining until the target year and the time needed to achieve the target value. The time needed to achieve the target is calculated based on baseline, current, and target values. If the time lag is negative, then the achievement of the target value by the country is problematic provided the current trends remain unchanged.
- \*\*\* With respect to some indicators, the time lag is insufficient. For example, the total time lag for achieving of MDG 7 is 18 months. Therefore in case the current dynamics is improved and additional efforts are undertaken, the achievement of MDG 7 by 2015 is possible.
- \*\*\*\* Despite the achievement of the quantitative indicator, the quality of access to safe drinking water is low. See relevant section of the report.
- \*\*\*\*\* Absence of target values for certain indicators does not allow conclusion to be drawn on achievement of the MDG in general.



## Millennium Development Goals – dynamics of monitoring indicators

Indicator	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
General poverty level, %	62,6	56,4	54,8	49,9	45,9	43,1	39,9	35	31,7	31,7
Extreme poverty level, %	32,9	24,7	23,3	17,2	13,4	11,1	9,1	6,6	6,1	3,1
Percent of children under 6 who are underweight	6,6	6,6	12,4	7,8	6,7	5,6	6,1	5,2	6,5	4,6
Percent of population consuming less than 2,100 calories per day	60,5	77,2	51,4	55,2	48,2	49,5	47,6	48,5	45,2	40,7
Literacy rate among boys aged 15-24, %	99,47	99,47	99,47	99,47	99,47	99,47	99,47	99,47	99,47	99,7
Literacy rate among girls aged 15-24, %	99,61	99,61	99,61	99,61	99,61	99,61	99,61	99,61	99,61	99,8
Percent of boys of primary school age who are pupils	96,6	95,5	94,9	94,9	95,4	96,2	96,1	97,8	98,4	97,1
Percent of girls of primary school age who are pupils	95,1	94,4	94,2	94,6	94,5	95,6	96,0	97,3	98,3	96,3
Percent of university students who are women	50,7	52,9	54	53,9	55,2	55,6	56,1	56,3	55,7	55,0.
Women's salaries as a percentage of men's salaries	67,6	63,1	64,9	64,1	66,6	62,5	65,8	67,3	67,3	63,9
Percent the economically active population who are women	45,3	45,4	44,0	44,1	43,1	42,9	42,4	42,2	43	н.д.
Percent of deputies to the Jogorku Kenesh who are women	6,7	6,7	6,7	6,7	6,7	0	0	25,6	31,1	н.д.
Under-five child mortality rate, per 1000 live births	33,2	29,5	29,0	27,7	31,8	35,1	35,3	35,3	31,5	29,3
Infant mortality rate per 1,000 live births	22,6	21,7	21,2	20,9	25,7	29,7	29,2	30,6	27,1	25
Percent of children vaccinated against measles	97,8	98,0	99,7	99,3	99,3	98,9	97,3	98,8	99,1	98,9
Maternal mortality rate per 100,000 live births	45,5	43,8	53,5	49,3	50,9	60,1	55,5	51,9	55	63,5
Percent of births attended by qualified personnel	98,6	98,7	98,8	98,9	98,2	97,9	98,4	98,4	98,5	98,5
Percent of pregnant women who have anemia	54,7	56,2	43,7	53,9	52,4	47,4	52,0	52,2	52,9	54,4
Percent annual growth in number of newly detected cases of HIV/AIDS	53	149	160	132	161	171	244	409	698	н.д.
Total number of people infected with HIV	53	202	362	494	655	826	1070	1479	2718	н.д.
Incidence of malaria, cases per 100,000	0,2	0,6	55,3	9,3	1,9	4,4	6,2	1,8	0,3	0,1
Incidence of tuberculosis, cases per 100,000	150,9	167,8	147,7	138,2	129,2	125,3	121,2	115,5	106,3	103,9
Tuberculosis mortality rates, cases per 100,000	20,7	23,6	20,1	18,2	15,9	14,1	12,8	11,2	9,0	н.д.

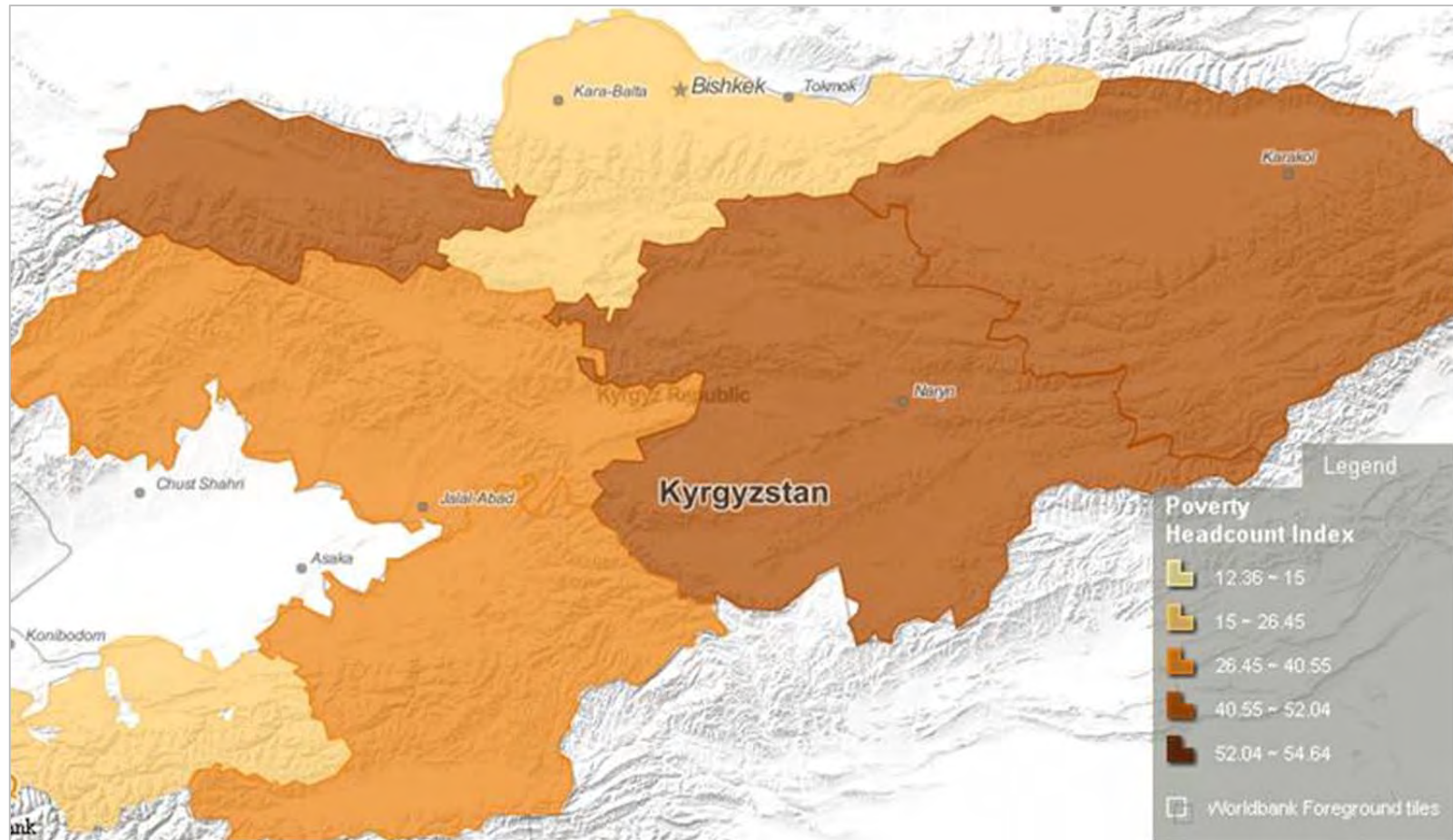
Number of drug users	4459	5043	5591	6327	6814	7216	8353	8734	9505	10417
Incidence of brucellosis, cases per 100,000	24,9	36,9	35,7	50,3	43,9	55,9	77,4	77,5	73,0	67,4
Percent of country that is forested	-	4,25	-	4,32	4,32	4,32	4,32	4,32	4,32	нд
Percent of country in specially protected territories	-	-	-	4,1	4,2	4,6	4,6	4,7	6,3	нд
Percent of population with sustainable access to safe drinking water	86,0	84,0	84,2	78,6	81,0	84,4	89,8	93,0	90,4	нд
Percent of population with sustainable access to sewerage	32,8	31,4	30,3	25,9	27,0	23,9	23,9	24,2	23,5	нд
Greenhouse gas emissions, tons of CO2 equivalent per capita	3,14	-	-	2,20	2,30	2,19	-	-	-	нд
Consumption of ozone-depleting substances, grams per capita	16	-	-	12,2	10,5	6,4	4,88	0,96	-	нд
Emissions of CO2, tons per capita	2,38	-	-	1,58	1,64	1,58	-	-	-	нд
External debt volume as a percentage of the GDP	101,9	94,2	98,3	94,3	88,2	76,5	69,9	52	44,6	нд
Cost of external debt service as a percentage of the value of exports of goods and services	-	-	-	7,2	6,5	6,4	4,9	3,3	3,2	нд
Level of unemployment among the youth, %	-	-	20,1	15,4	15,2	14,5	14,6	-	14,8	нд
Number of telephones per 1,000 persons	79	85	95	107	134	191	319	504	738	нд
Number of employees per 1,000 who use computers at work	-	-	-	105,6	121,7	143,2	170,8	193,8	-	нд

地図 1 キルギスタン行政区画<sup>7</sup>



<sup>7</sup> Nationsonline.org <http://www.nationsonline.org/oneworld/map/kyrgyzstan-political-map.htm> (2011/12/14 アクセス)

地図 2 貧困率の分布 (2005 年)



<sup>8</sup> World Bank <http://maps.worldbank.org/eca/kyrgyz-republic> (2012/02/03 アクセス)

## I. キルギスにおける貧困の状況の概観

### 1. キルギスの貧困の状況の概観

キルギス共和国（以下、キルギス）は、1991年末のソ連崩壊後に成立した国家であり、金、希少金属のほか、豊富な水資源を有している<sup>9</sup>。キルギスは、キルギス人(71.0%)、ウズベク人(14.3%)、ロシア人(7.8%)、ドゥンガン人、ウイグル人、タジク人、カザフ人等、約80の民族から構成される多民族国家<sup>10</sup>であり、人口は約5百万人と少なく、人口密度も希薄であり、総じて経済は脆弱である。また、汚職・内政不安として表出する脆弱なガバナンスの状況が適切な社会、経済政策の立案・実施を阻害している<sup>11</sup>。

キルギスは、国際的、或いは国内の貧困基準のいずれかで測定しても、貧困率の高い低所得国である。世界銀行は、キルギス基準による2009年の絶対的貧困率を31.7%、貧困ギャップを6.1%と推計しており、170万人が貧困線以下となっている<sup>12</sup>。他国同様、貧困の分布は一様ではなく、都市部の貧困率は22%であるのに対し、農村部は37.1%となっており、農村部に貧困が多い。地域的には、人口が多いため貧困者の絶対数は、Osh州、Jalal-Abad州、Issyk-Kul州に多い。また、山岳部の多いキルギスでは、山岳部に高い貧困率がみられる<sup>13</sup>。

貧困率の推移に関しては、GDP、総消費、送金の増加等の変化に関係しており、GDPの平均成長率が5.7%と安定した経済成長がみられた2006年から2009年にかけて、貧困率は29.3%減少している<sup>14</sup>。全ての州で絶対的貧困の削減は進んでいるが、都市部での減少がより顕著であり、極度の貧困については、農村部での削減が顕著になっている。2006年から2009年にかけて、貧困ギャップや二乗貧困率も縮小傾向を示しており、ジニ係数も31.3%から25.5%に改善し、特に農村部で改善がみられる<sup>15</sup>。上記に加え、キルギスの貧困の特徴的な点として、人数の多い世帯の貧困率が高いことがある。

キルギスの人間開発指標（HDI）は、他の低所得国より高い数値ではあるが、欧州中央アジアの開発途上国の指標との比較では劣っている<sup>16</sup>。MDGに関しては、キルギスは、妊産婦死亡率や、結核を除いて、大半の目標を達成できる見込みであるが、基礎教育の就学率は、1999年と2009年の間、ゆるやかな減少が見られる<sup>17</sup>。

<sup>9</sup> 外務省（2009），対キルギス国別援助計画，p.1

<sup>10</sup> 在キルギス共和国日本国大使館（2011）キルギス共和国概要，[http://www.kg.emb-japan.go.jp/gaiyou\\_2011.4.pdf](http://www.kg.emb-japan.go.jp/gaiyou_2011.4.pdf)（2012/1/4 アクセス）

<sup>11</sup> 外務省（2009），対キルギス国別援助計画，p.2

<sup>12</sup> World Bank（2011），The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality，2009.,p.i

<sup>13</sup> Ibid

<sup>14</sup> Ibid，p.ii

<sup>15</sup> Ibid

<sup>16</sup> Ibid，p.i

<sup>17</sup> Ibid

## II. キルギスの貧困状況と政策枠組み

### 1. 中期開発プログラムにおける貧困削減政策

キルギスは、2007年に「国家開発戦略 2007–2010 (CDS-1)」を策定し、CDS-1に続き、2009年に「国家開発戦略 2009–2011 (CDS-2)」を発表している。CDS-2では①経済成長の質の向上、②行政の質の向上、③生活の質の向上、④環境の質の向上、がそれぞれ掲げられていた。しかし2010年に発生した政変によって開発戦略を再考する必要が出てきたことから、2011年9月に新たな国家開発戦略となる「Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 - 2014」のドラフトを発表した。

中期開発プログラムは、経済発展とビジネス環境の改善に向けた、行政権の効率的システムの創造・構築を目的としており、その達成に向け、解決が必要な課題として以下の7点を挙げている。

- ・ 公共支出の削減と政府収入の増加
- ・ 新国家プロジェクトの開始による経済開発
- ・ 公共資産の効率的な管理
- ・ 許認可システムの改革
- ・ 社会セクター改革
- ・ 安全保障セクター改革
- ・ 司法制度改革

中期開発プログラムは、経済成長志向のプログラムであり、経済成長を通じた貧困削減促進を目指していると考えられる。中期開発プログラムは、経済開発、財政政策、開発環境の改善、社会開発、安全保障、地域開発等について記載している。

社会開発に関しては、法規制の枠組みの改善、質の良い社会サービスの提供・開発を掲げており、地域でのサービス提供の主体となるソーシャルワーカーの育成機関を創設するとしている<sup>18</sup>。また、透明でアクセス可能な社会給付金 (Social Payment) 制度の創設や、低所得世帯に対する毎月の手当支給に関する査定の改善・強化を図るとしている<sup>19</sup>。医療サービス制度については、未だ非効率であり、アクセスは低水準に留まっている。そのため、今後数年間は、医療サービスに関する緊急の課題や、乳幼児死亡率の低下や母体の保護等、MDGsの達成に注力するとしている<sup>20</sup>。社会的保護 (Social Protection) に関しては、中期開発プログラムの具体的なプログラムとして、社会的に脆弱な層への効果的な支援、質の高い社会サービスの迅速な提供を実現するため、社会サービス提供に関する法的枠組みの改善、社会的に脆弱な層についてのデータベースの構築、社会的に脆弱な層に対する支援

<sup>18</sup> Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 – 2014, Paragraph 72

<sup>19</sup> Ibid, Paragraph 75

<sup>20</sup> Ibid, Paragraph 76

の改善による社会保護の強化等を掲げている<sup>21</sup>。

地方の貧困率が高いキルギスにおいて、中期開発プログラムでは、以下の点に着目し、地方開発のコンセプトを 2011 年末までにドラフトするとしている。

- ・ 各地方における経済開発における不平等性の削減
- ・ 地方経済のキャパシティ・ビルディングと投資促進の強化
- ・ 農村部からの人口流出の削減
- ・ インフラ開発
- ・ PPP (Public and Private Partnership) の地方における発展

## 2. 政府の社会的保護 (Social Protection) 政策と貧困削減

キルギスの社会給付システムは、給付を受ける者自身が一定の拠出を行う社会保険のような社会給付 (Contributory Benefit) と、給付を受ける者が拠出を行わず、国家予算から支出される社会給付 (Non-Contributory Benefit) の 2 種類に分類できる<sup>22</sup>。前者には年金、失業保険等が含まれ、後者は、Unified Monthly Benefit (UMB)、Monthly Social Benefit (MSB)、ソ連時代から続く社会的分類に基づく給付の 3 つに大別される。UMB は、子供<sup>23</sup>のいる貧困家庭を給付対象としており、対象家庭の収入と最低保証消費水準のギャップを埋める給付の実施を目的とした制度である。MSB は、身体障害者、孤児、無年金老人を対象とし、その分類に応じて、毎月 1,000 ソム (KGS)<sup>24</sup>から 2,000KGS を給付する制度であり、対象者に対して、毎月平均で 1,295KGS (約 28.3 米ドル) の給付が行われている<sup>25</sup>。GDP に占める社会給付の推移は下表のとおりである。

世界銀行は、2010 年に既存の社会的保護制度の効果について分析しており、同分析において、以下を指摘している。

- ・ 貧困削減において、貧困削減を目的としていない年金が最も重要な社会的な所得分配・移転となっている。
- ・ インフォーマルな移転所得 (Informal transfer) が貧困削減において 2 番目に重要な所得分配・移転となっており、極度の貧困を 2%削減している。
- ・ UMB、MSB による給付は、最も低い所得階層の家庭の収入において高いシェアを占めており、実施された給付の半分以上が、最も低い所得階層に対して実施されている。
- ・ 奨学金、住宅及び公共料金補助等は、貧しい家庭より豊かな家庭の方が恩恵を受

<sup>21</sup> Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 – 2014, Paragraph 132 - 19

<sup>22</sup> Franziska Gassmann (2011), To What Extent Does the Existing Safety Net Protect the Poor?, p.3

<sup>23</sup> 16 歳未満の児童あるいは、18 歳未満の General Educational Institution の学生、21 歳未満の Vocational Institution の学生が対象となる。

<sup>24</sup> 1 ソム(KGS) = 1.678 円(JICA 平成 23 年度精算レートによる)。

<sup>25</sup> Franziska Gassmann (2011), To What Extent Does the Existing Safety Net Protect the Poor?, p.7

けている。例えば、34%の住宅及び公共料金補助は、所得階層の上位20%が享受しており、下位40%の階層は、給付の24%を享受するのみとなっている。

世界銀行のレポートでは、社会的保護のツールとしてUMBが効果的としているが、極度の貧困削減に対する効果は限定的であり、給付対象の拡大、給付水準の引き上げによる強化が必要との見解を示している。

図表 9 GDPに占める社会給付の推移 (2005年-2010年) <sup>26</sup>

Table 1: Government spending on non-contributory social transfers, 2005-2010

		2005	2006	2007	2008	2009	2010 est
GDP*	bio KGS			141.9	188.0	196.4	229.1
Total spending on non-contributory benefits	mio KGS	1,323	1,605	1,670	1,905	2,204	3,790
as percentage of GDP	%			1.18	1.01	1.12	1.65
- UMB	mio KGS	508	773	695	673	755	1,147
as percentage of GDP	%			0.49	0.36	0.38	0.50
- MSB	mio KGS	220	329	365	542	619	1,033
as percentage of GDP	%			0.26	0.29	0.32	0.45
- Categorical state benefits (l'goti)	mio KGS	595	503	609	689	829	1,609
as percentage of GDP	%			0.43	0.37	0.42	0.70
Population**	mio	5.14	5.20	5.25	5.31	5.37	5.44
Total number of beneficiaries	'000	975	972	837	789	708	487
as percentage of the population	%	19.2	18.9	16.1	15.0	13.3	9.1
- UMB	'000	482	481	475	434	362	396
as percentage of the population	%	9.4	9.3	9.0	8.2	6.7	7.3
- MSB	'000	54	57	59	59	61	65
as percentage of the population	%	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2
- Categorical state benefits (l'goti)	'000	439	434	303	296	285	26
as percentage of the population	%	8.5	8.3	5.8	5.6	5.3	0.5
average amount of UMB per month	KGS	89	124	125	120	135	205
average amount of MSB per month	KGS	367	456	461	656	715	1,295

Source: MLSP 2006, 2007, ASP 2009, World Bank (GDP), IMF (Population)

\* GDP 2009: preliminary; \*\* Population: estimates for 2007-2010.

<sup>26</sup> Franziska Gassmann (2011), To What Extent Does the Existing Safety Net Protect the Poor?, p.4



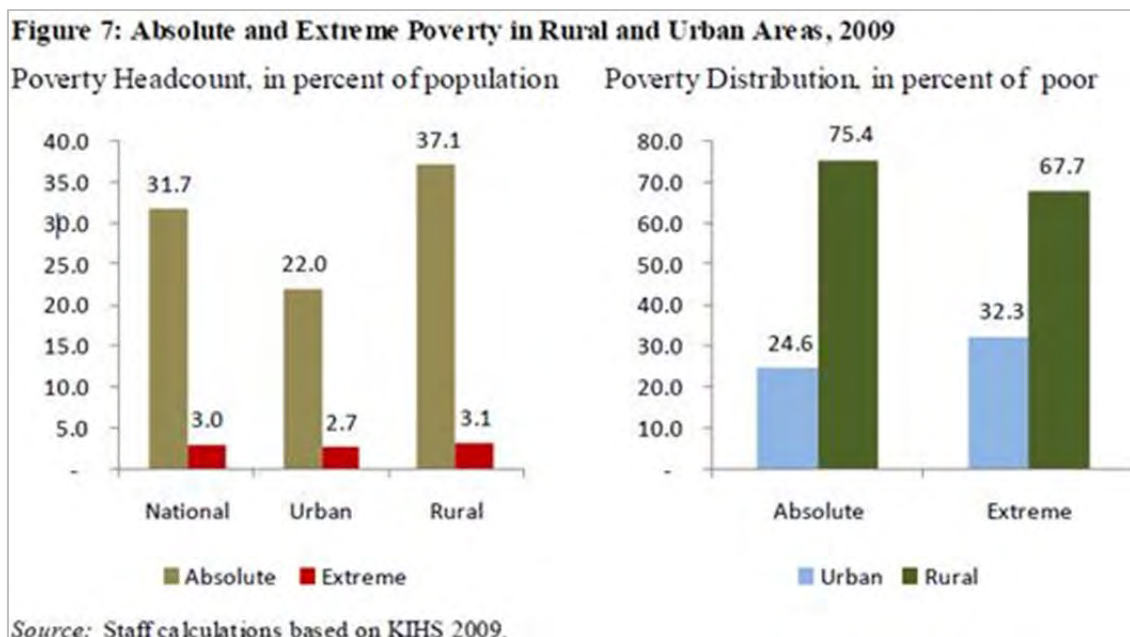
### III. 所得貧困に基づく分析

#### 1. 貧困線とデータ

貧困関連のデータは、国家統計局（National Statistical Committee: NSC）が実施しているキルギス総合的家計調査（Kyrgyz Integrated Household Survey: KIHS）の2009年のデータを基にしている<sup>27</sup>。KIHSは、5,016世帯を対象とし、19,060人について情報収集を実施した。家計調査は四半期毎に定期的に行われ、対象となる世帯は、平均して4年間固定される。

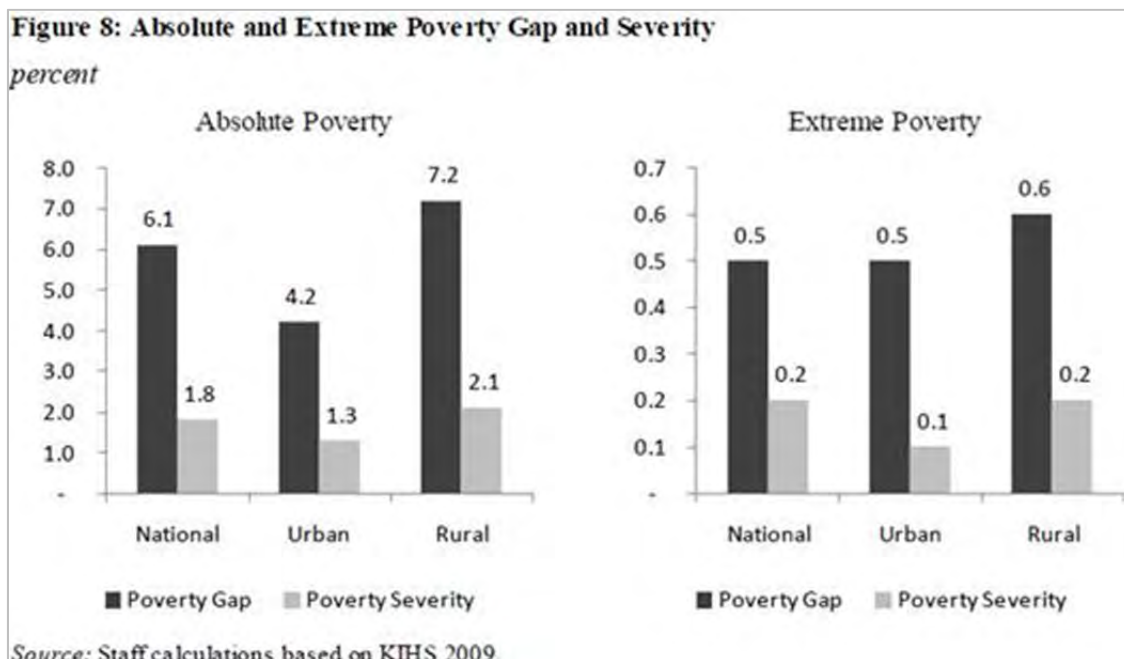
キルギスでは、貧困線は、Absolute Poverty LineとExtreme Poverty Lineの2つが設定されている。Absolute Poverty Lineは、1日2,100カロリーの摂取とその他の食糧以外の基本的なニーズを満たす数値であり、Extreme Poverty Lineは、1日2,100カロリーの摂取を基準としている。貧困線を基準とした貧困の状況は、国レベル、都市部、農村部の3つが示されているほか、Bishkek、Issykul、Jalal-Abad、Naryn、Batken、Osh、Talas、Chuiの8つの州（Oblasts）別に数値が示されている。

図表 10 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率(2009年)<sup>28</sup>



<sup>27</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.1.

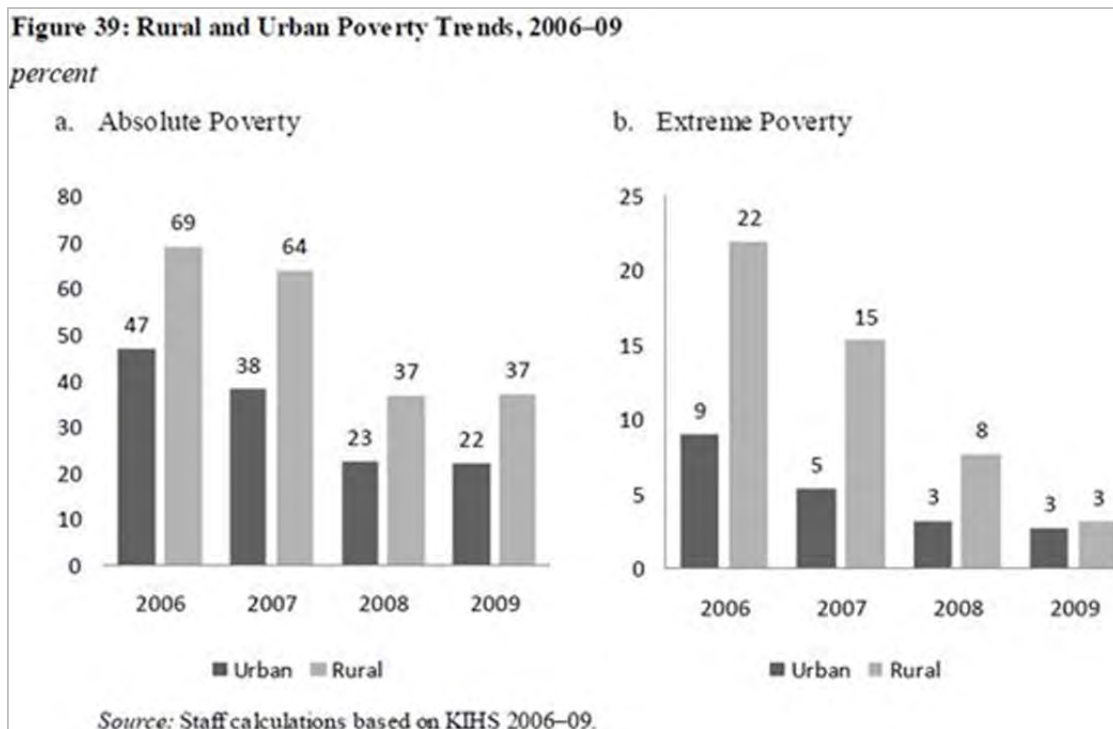
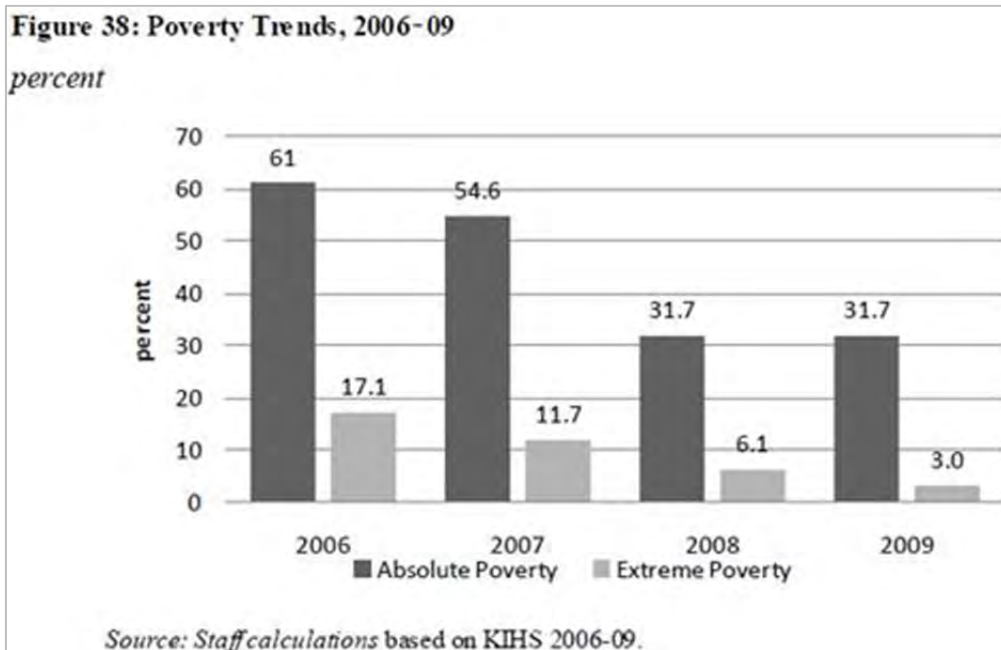
<sup>28</sup> Ibid, p.7.



## 2. 貧困の状況—貧困率の分析

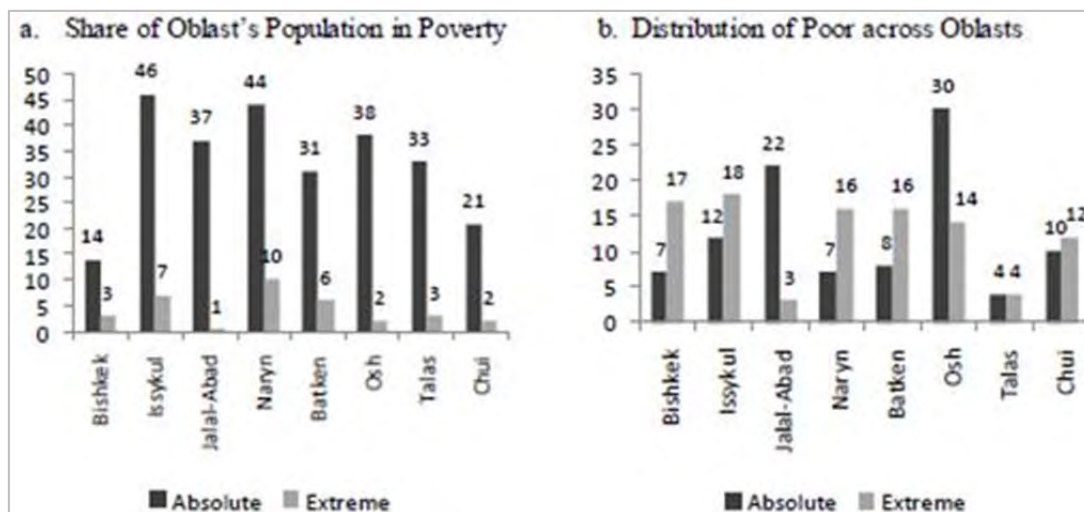
貧困率は、2006年から2009年にかけて61%から31.7%に減少したが、2008年以降、経済成長の鈍化に伴い、2008年、2009年共に31.7%で停滞している。貧困率は、都市部と農村部では、農村部が高いが、2006年から2009年にかけて都市部（47%から22%へ）、農村部（69%から37%へ）ともに減少している。地域的な貧困の分布についても、都市部と農村部の貧困の特徴と類似する点が見られ、主たる産業が農業で首都から地理的に離れた州の貧困率が高い傾向がある。例えば、2009年のIssyk-Kul州、Naryn州、Osh州の貧困率は、46.1%、44.1%、38.3%と他州に比べ高くなっている一方、Chui州や首都Bishkekのように都市化が進み、産業のある地域の貧困率は、21.2%、13.2%と他州より低い傾向がみられる。貧困者の絶対数に着目した場合、貧困者の過半数（52%）は、人口の多いOsh州、Jalal-Abad州に存在し、その数は52万人、38.3万人となっている。首都Bishkekは、人口規模で3番目に大きな地域であるが、貧困者の絶対数は11.6万人と2番目に低い水準となっている。以上を踏まえ、世界銀行のレポートでは、地理的な要素がキルギス国内における貧困リスクの相違を説明する上で非常に重要と指摘している。

図表 11 貧困率の推移（2006年 - 2009年）<sup>29</sup>



<sup>29</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, pp.35-36

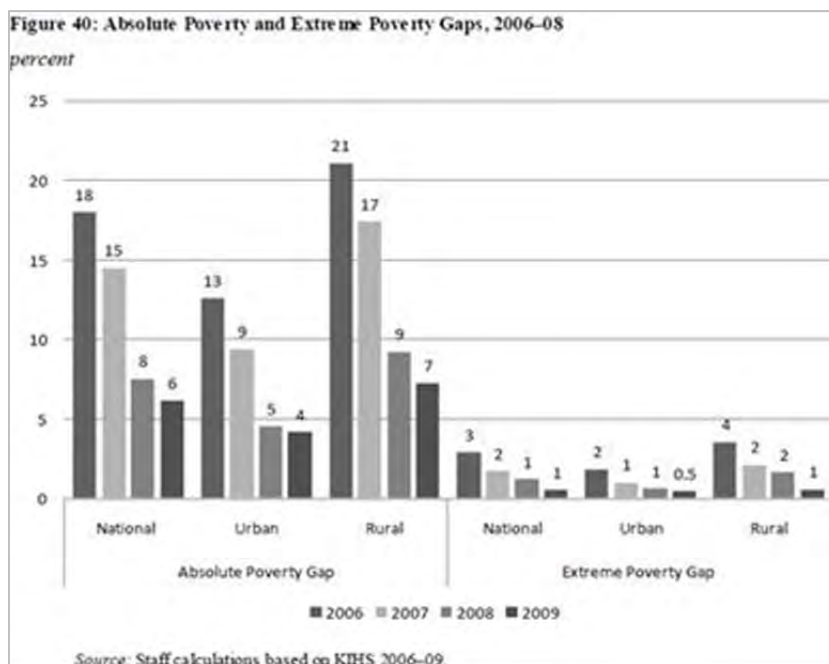
図表 12 州別の貧困の状況（2009年）<sup>30</sup>



### 3. 貧困ギャップ率の分析

貧困の深刻度の平均を出す貧困ギャップ率は2009年の調査では6%となっている。貧困ギャップ率は、貧困層の消費水準の貧困ラインからの不足分を示しており、仮に非貧困者が貧困線と同等の消費をしたうえで、貧困者層が貧困線相当の消費を行おうとすると6%不足することを示している。

図表 13 貧困ギャップ率の推移（2006年-2009年）<sup>31</sup>



<sup>30</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.9

<sup>31</sup> Ibid, p.37

2006年の貧困ギャップ率は、18%であったが、2009年には6%に低下しており、貧困の深刻度は緩和の傾向を示している。

#### 4. 格差の分析—ジニ係数・所得階層の分析

2006年から2009年にかけて、国レベル、都市部、農村部のいずれにおいても、ジニ係数は減少しており、格差は縮小する傾向を示している。但し、主たる収入源の相違により、地方によっては、2007年から2009年にかけてジニ係数が上昇している地方（Jalal-Abad、Osh）もある。

図表 14 ジニ係数（国、都市部、地方）の推移（2006年-2009年）<sup>32</sup>



所得階層別の平均消費と貧困線の関係については、2007年から2009年にかけて、全所得階層で改善が見られるが、低所得層（第1分位、第2分位）は依然、貧困線以下の消費水準に留まっている。また、所得階層の上位3層（第3～第5分位）において、一人あたり消費の増加率が低所得層より高くなっている。更に、一人あたり消費の成長率について、所得階層の両端（第1分位、第5分位）の方が、その他の所得階層（第3～第5分位）よりも、成長率の変動幅が小さくなっている。

<sup>32</sup> Ibid, p.39

図表 15 ジニ係数の推移（2006年-2009年）<sup>33</sup>

Table 13: Gini coefficient (Per Capita Consumption) by Oblast, 2007-09				
Gini coefficient by Per Capita Consumption				
	2007	2008	2009	Change 2007-09
Bishkek	24.9	24.8	24.7	-0.2
Issyk-Kul	24.1	28.4	25.2	1.1
Jalal-Abad	18.8	22	19.7	0.9
Naryn	26.6	24.8	24.4	-2.2
Batken	24.1	20.9	23.4	-0.7
Osh	21.6	23.1	25.1	3.5
Talas	29.5	22.2	23.4	-6.1
Chui	25.8	25.7	25.6	-0.2

Source: Staff calculations based on KIHS 2006-09.

図表 16 所得階層別の平均消費と貧困線の関係（2007年-2009年）<sup>34</sup>

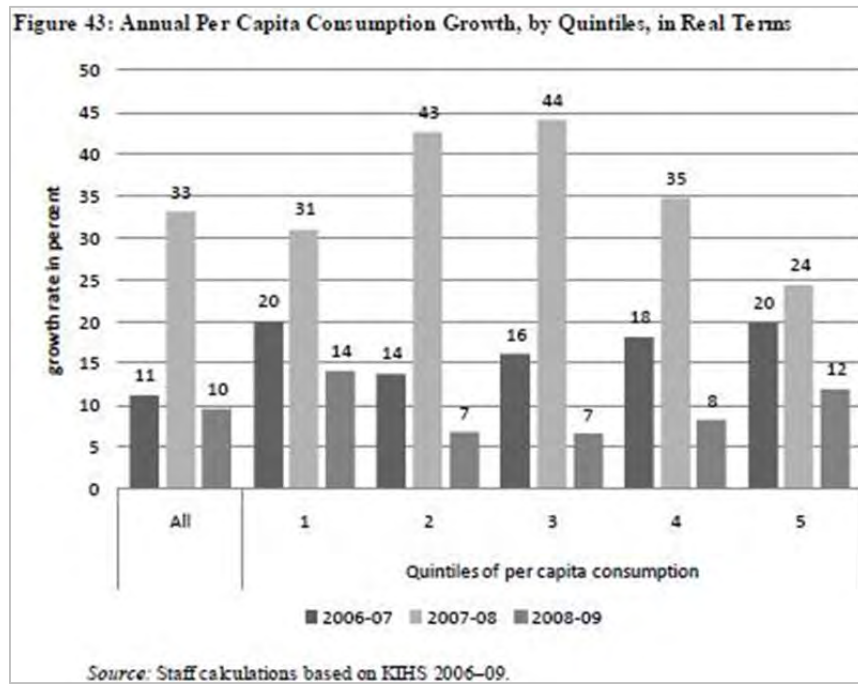
Table 14: Mean Consumption as Proportion of Poverty Line, by Quintiles, 2007-09					
Quintile of Per Capita Consumption	2007	2008	2009	Change 2007-09	Change 2008-09
1	0.57	0.67	0.72	0.15	0.05
2	0.76	0.97	0.98	0.22	0.01
3	0.95	1.22	1.23	0.28	0.01
4	1.3	1.56	1.59	0.29	0.03
5	2.21	2.45	2.59	0.38	0.14

Source: Staff calculations based on KIHS 2007-09.

<sup>33</sup> Ibid

<sup>34</sup> Ibid, p.40

図表 17 階層別一人あたり消費の実質成長率（2007年-2009年）<sup>35</sup>



<sup>35</sup> Ibid

## IV. 所得貧困以外による分析

### 1. HDI による経年変化の分析と地域国際比較

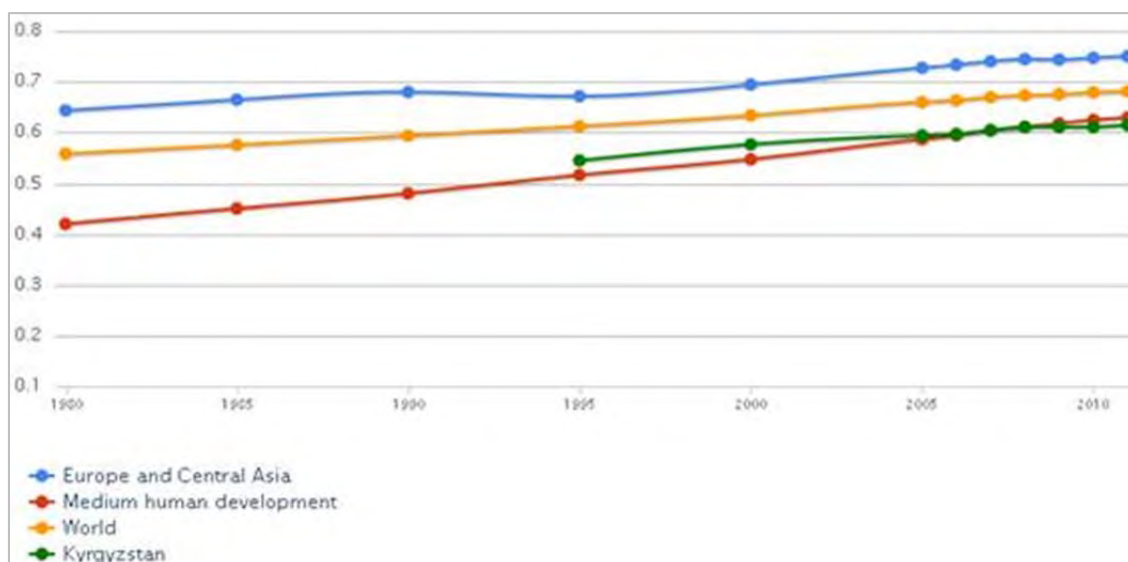
キルギスの HDI は 2011 年に 0.615 となっており、187 か国中 126 位となっている<sup>36</sup>。欧州及び中央アジア地域の HDI は、1980 年の 0.644 から現在、0.751 まで上昇しており、キルギスの指数は、緩やかな上昇傾向を示しているが依然、地域平均を下回っている。

図表 18 キルギス人間開発指標の推移（1995 年 - 2011 年）<sup>37</sup>

Human Development Index

Year	Kyrgyzstan
2011	0.615
2010	0.611
2009	0.611
2008	0.611
2007	0.605
2006	0.598
2005	0.595
2000	0.577
1995	0.545

図表 19 キルギス人間開発指標の推移<sup>38</sup>（1990-2011）



<sup>36</sup> UNDP, International Human Development Indicators, Kyrgyzstan, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/KGZ.html> (2012/3/23 アクセス)

<sup>37</sup> Ibid

<sup>38</sup> Ibid



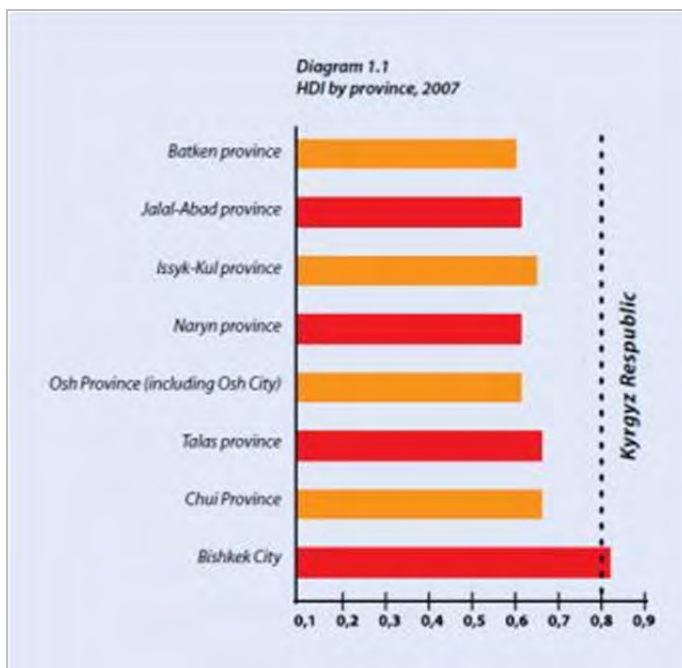
図表 20 州別 HDI 指標の変遷(1995 年-2007 年)<sup>39</sup>

Table 1.2. HDI Dynamics

	1995	2000	2004	2005	2006	2007
<b>Kyrgyz Republic</b>	<b>0.642</b>	<b>0.684</b>	<b>0.696</b>	<b>0.696</b>	<b>0.697</b>	<b>0.704</b>
Batken Province	-	0.638	0.648	0.638	0.638	0.650
Jalal-Abad Province	0.633	0.688	0.667	0.661	0.663	0.667
Issyk-Kul Province	0.646	0.718	0.708	0.697	0.683	0.693
Naryn Province	0.638	0.677	0.658	0.656	0.661	0.666
Osh Province (including Osh City)	0.621	0.654	0.641	0.641	0.665	0.667
Talas Province	0.641	0.678	0.677	0.675	0.685	0.685
Chui Province	0.660	0.681	0.691	0.687	0.682	0.683
Bishkek Province	0.664	0.719	0.749	0.762	0.812	0.828

In 2007, not a single province had an HDI over 0.700. The lowest HDIs – in Batken, Naryn and Osh provinces – were offset by Bishkek's HDI of 0.828, to reach a national average of 0.704.

図表 21 州別 HDI 指標 (2007 年)<sup>40</sup>



## 2. MDG 指標分析

キルギスは、MDGs 達成に向けて明確な進捗を示しており、特に、目標 1「極度の貧困の削減」、目標 7「環境の持続可能性確保」、目標 8「開発のためのグローバルなパートナーシ

<sup>39</sup> UNDP (2009,2010), Kyrgyzstan National Human Development Report: Successful Youth - Successful Country, p.8  
[http://hdr.undp.org/xmlsearch/reportSearch?y=\\*%&c=n%3AKyrgyzstan&t=\\*%&lang=en&k=&orderby=year](http://hdr.undp.org/xmlsearch/reportSearch?y=*%&c=n%3AKyrgyzstan&t=*%&lang=en&k=&orderby=year)  
 (2011/12/14 アクセス)

<sup>40</sup> Ibid

ップの推進」等、いくつかの指標を既に達成している。しかしながら、保健セクターに関する指標である、目標 4「乳幼児死亡率の削減」、目標 5「妊産婦の健康の改善」、目標 6「HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」について、達成が危ぶまれている。

図表 22 キルギス MDG 指標の推移（1995 年-2011 年）<sup>41</sup>（再掲）

MDG Indicator monitoring and MDG Indicator analogs in the CD					
	Millennium Development Goals			Country Development Strategy 2010	Country Development Strategy 2011 (draft matrix)
Baseline value	Current value (2009)	Target value (2015)	Target value (2010)	Target value (2011)	Target value (2011)
<b>Goal 1 Radical reduction of extreme poverty</b>					
1. Extreme poverty level, %	24,7 (2001)	3,1	12,9	Reduction of general poverty level to 29,8%	Poverty level
2. Percent of children under 6 who are underweight	7,9 (1998)	4,6	3	-	-
3. Percent of population consuming less than 2,100 calories per day	57 (1998)	40,7	27,7	-	-
<b>Goal 2 Achievement of universal secondary education</b>					
4. Literacy rate among boys aged 15-24, %	99,5 (1989)	99,7	100	99,5	-
5. Literacy rate among girls aged 15-24, %	99,6 (1989)	99,8	100	99,5	-
6. Percent of boys of primary school age who are pupils	91,7 (1990)	97,1	100	99,5	Coverage of boys with basic secondary education (grades 1-9): 97%
7. Percent of girls of primary school age who are pupils	92,3 (1990)	96,3	100	99,5	Coverage of girls with basic secondary education (grades 1-9): 97%
<b>Goal 3 Promote gender equality and empower women</b>					
8. Percent of university students who are women	51,2 (1990)	55	50,0	-	Additional indicator: percent of students in universities and specialized high schools studying engineering, technical trades, and education who are women: 30%
9. Women's salaries as a percentage of men's salaries	73,0 (1996)	63,9	100,0	Additional indicator: reduced gap between the salaries of men and women	Women's salaries as a percentage of men's salaries: 73%
10. Percent of economically active population who are women	46,5 (1996)	43 (2008)	50,0	-	Percent of economically active population who are women: 46,5%
11. Percent of deputies to the Jogorku Kenesh who are women	6,7 (2001)	31,1 (2008)	30,0	Increased representation of women among deputies of all levels: 30%	Percent of people at the decision-making level who are women: 30%

<sup>41</sup> Ibid, p.8

<b>Goal 4 Reduce child mortality</b>					
12. Under-five child mortality rate per 1,000 live births	41,3 (1990)	29,3	10,4	38,3	Under-five child mortality rate: 0.8% annual decrease
13. Infant mortality rate per 1,000 live births	30 (1990)	25	8,5	36,9	Infant mortality rate: 0.6% annual decrease
14. Percent of children vaccinated against measles	95 (1990)	98,9	100	Coverage with immunizations: 99%	Coverage of children under two with all types of vaccinations: 98%
<b>Goal 5 Improve maternal health</b>					
15. Maternal mortality rate per 100,000 live births	62,9 (1990)	63,5	15,7	72	Maternal mortality: 50%
16. Percent of births attended by qualified personnel	98,9 (1990)	98,5	100	-	-
17. Percent of pregnant women who have anemia	25,2 (1990)	54,4	25	-	-
<b>Goal 6 Combat HIV/AIDS, malaria and other diseases</b>					
18. Percent annual growth in number of newly detected cases of HIV/AIDS	-	42,9	Not more than 20% per annum	Not more than 20% per annum	-
19. Incidence of malaria, cases per 100,000	0,02 (1990)	0,1	0	Less than 5	-
20. Incidence of tuberculosis, cases per 100,000	52,1 (1990)	103,9	52	111,3	100,7
21. Tuberculosis mortality rates, cases per 100,000	6,7 (1990)	9,0 (2008)	7	-	9,5
22. Percent of cases of tuberculosis cases cured within the DOTS program	85,4 (1998)	84,5 (2008)	increase	-	-
23. Number of drug users	1182 (1990)	10417	1200	-	-
24. Incidence of brucellosis, cases per 100,000	12,8 (1990)	67,4	12,8	-	-
<b>Goal 7 Ensure environmental sustainability</b>					
25. Percent of country that is forested	4,25 (2001)	4,32 (2008)	6	6	-
26. Percent of country in specially protected territories	4,1 (1990)	6,3 (2008)	10	6	Percent of country in specially protected territories: 5.5
27. Percent of population with sustainable access to safe drinking water	81,3 (1996)	90,4 (2008)	90	-	Additional indicator: availability of water supply systems in settlements
28. Percent of population with sustainable access to sewerage	24 (1996)	23,5 (2008)	40	-	

29. Greenhouse gases emissions, tons of CO <sub>2</sub> equivalent per capita	7,71 (1991)	2,19 (2005)	3,14	Reduction of total volume of air polluting emissions by 8.5% from 2005 level	Complex air pollution index in Bishkek: 9.0
30. Consumption of ozone-depleting substances, grams per capita	32 (1991)	0,96 (2007)	16		-
31. Emissions of CO <sub>2</sub> , tons per capita	6,19 (1991)	1,58 (2005)	2,38		-
<b>Goal 8 Develop a global partnership for development</b>					
32. External debt volume as a percentage of GDP	94,2 (2001)	44,6 (2008)	20	-	Level of state debt – not more than 48
33. Cost of external debt service as a percentage of value of exports of goods and services	12,8	3,2 (2008)	8	Cost of external debt service as a percent of national budget revenues: 8.57%; as a percent of GDP: 1.96%	External debt servicing level – not more than 15
34. Level of unemployment among the youth, %	20,1 (2002)	14,8 (2008)	-	-	-
35. Number of telephones per 1,000 people	85 (2001)	738 (2008)	-	Installation of telephones in settlements without them: 500-550 settlements	Installation of telephones in settlements without them: 526
36. Number of employees per 1,000 who use computers at work	105,6 (2003)	193,8 (2007)	-	-	-

### 3. 食糧安全保障・脆弱性による分析

WFP は 2008 年から Kyrgyz Integrated Household Survey (KIHS) のデータを基にキルギスでの食糧安全保障・脆弱性の分析を行っている<sup>42</sup>。しかし、政治的不安によって、2011 年以前の KIHS のデータは使えないため、KIHS とは違った食糧不安の指標を使って評価を行う Emergency Food Security Assessment (EFSA) が策定され、国レベル、都市部と農村部、州レベルの食糧安全保障に関するデータを提供している。2010 年 7 月に実施した EFSA の調査 (250 箇所 の 2,000 世帯から収集された情報と、277 のインタビュー調査) によると、27%、約 139 万人が食糧不安の状況にある<sup>43</sup>。食糧不安・脆弱性の程度は都市部よりも農村部が高くなっている。食糧不安の程度が最も高い地域は Osh 州であり、次いで Yssyk-Kul 州、Talas 州、Batken 州、Jalalabad 州となっている。他方、最も食糧が保障されている地域は、Bishkek の都市部と Chuy 州となっている。また、WFP の 2011 年の調査<sup>44</sup>によると、キルギスの約 14% の家計は、厳しい食糧不安の状況にある。食糧不安の分布は一樣ではなく、都市部の 6% に対し、農村部は 18% となっている。Osh 州の農村部、

<sup>42</sup> FAO/WFP (2010) Special Report FAO/WFP Crop and Food Security Assessment Mission to Kyrgyzstan, p25, <http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp231422.pdf>

<sup>43</sup> Ibid

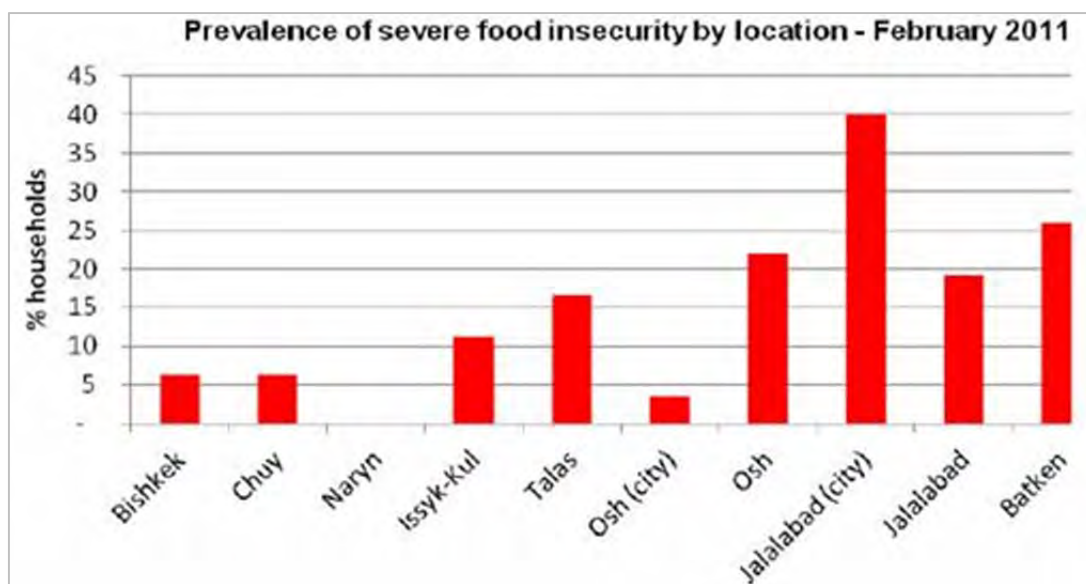
<sup>44</sup> WFP (2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic, pp.6 - 7

Jalalabad 州の都市部・農村部周辺の食糧不安が 20%を越えており、最も高くなっている。下図に示すとおり、2010 年から 2011 年にかけて、食糧不安の状況は悪化しており、特に、Osh、Jalalabad、Batken 州において、食糧不安の割合が高くなっている。背景には、2010 年 6 月の騒乱の影響があり、特に Jalalabad 州については、10%以上の家計が、親類の家に居住していると回答している。

食糧不安に直面している世帯の特徴として、子供、妊婦や病人など、助けが必要な人が多い大家族であるということが言える。また、農村部では土地や家畜の所有が少ない世帯、都市部では定職、或いは安定した収入が少ない世帯が食糧不安を抱えている<sup>45</sup>。食糧不安の主な要因としては以下が挙げられている<sup>46</sup>。

- ・ 小規模な営農面積、農業投入資材の購入困難、人手不足
- ・ 獣医療サービス、飼料の購入困難
- ・ 失業、低い教育水準による安定的且つ、高賃金の職業からの除外
- ・ ロシアの禁輸措置に伴う小麦価格の上昇の影響による購買力の低下
- ・ 資産や貯蓄不足による、悪天候などのリスクへの対応の脆弱性

図表 23 食糧不安の分布状況 (2011 年)<sup>47</sup>

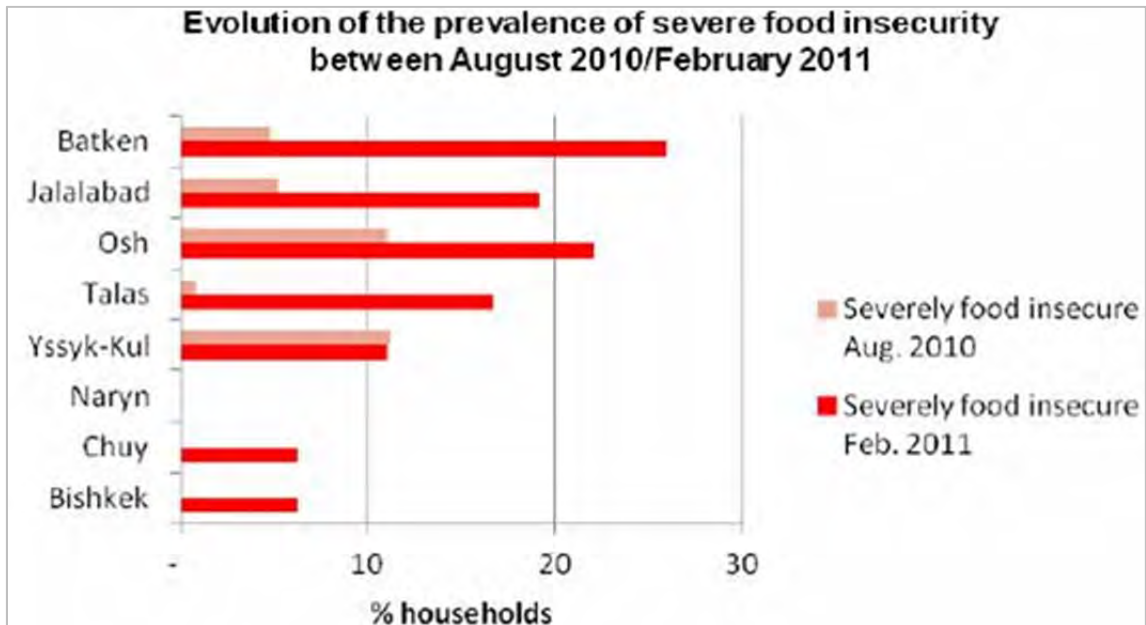


<sup>45</sup> WFP(2010), FAO/WFP (2010) Special Report FAO/WFP Crop and Food Security Assessment Mission to Kyrgyzstan, p.26, Table10

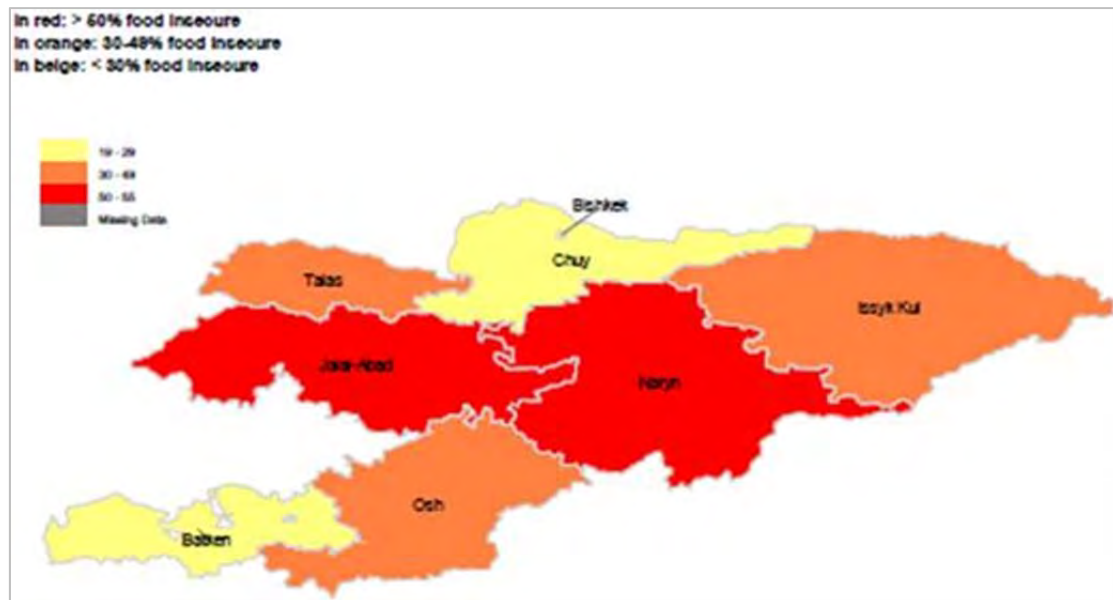
<sup>46</sup> Ibid, pp.26-27

<sup>47</sup> WFP(2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic, pp.6 - 7

図表 24 食糧不安の分布状況の推移（2011 年）<sup>48</sup>



図表 25 食糧安全保障の状況（2006 年 – 2008 年 1Q）<sup>49</sup>



<sup>48</sup> Ibid, pp.6 - 7

<sup>49</sup> WFP(2008) Kyrgyzstan - Food Security Analysis: Integrated Household Survey 2006, 2007 and 1st Quarter of 2008, <http://www.wfp.org/content/kyrgyzstan-food-security-analysis-integrated-household-survey-november-2008> (2012/02/03 アクセス)

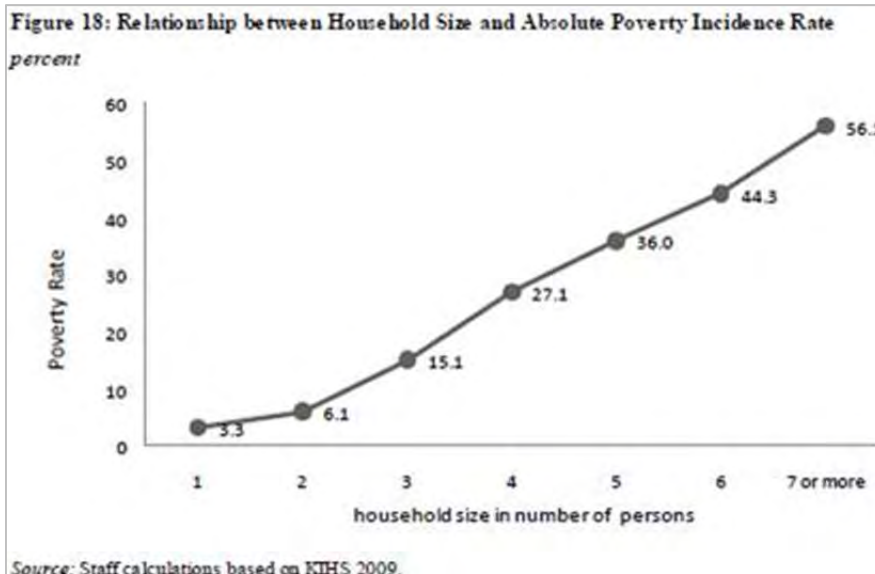
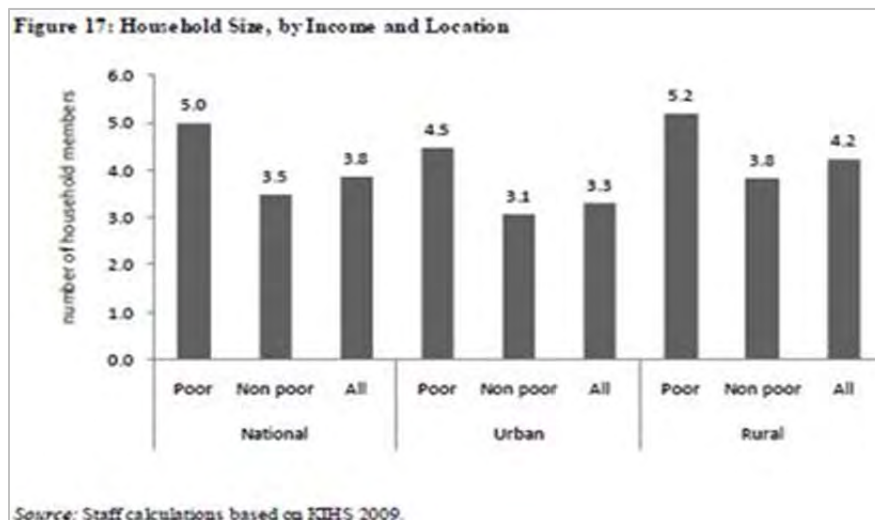
## V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析

### 1. 社会的属性・特性による特長

#### (1) 大家族の高い貧困率

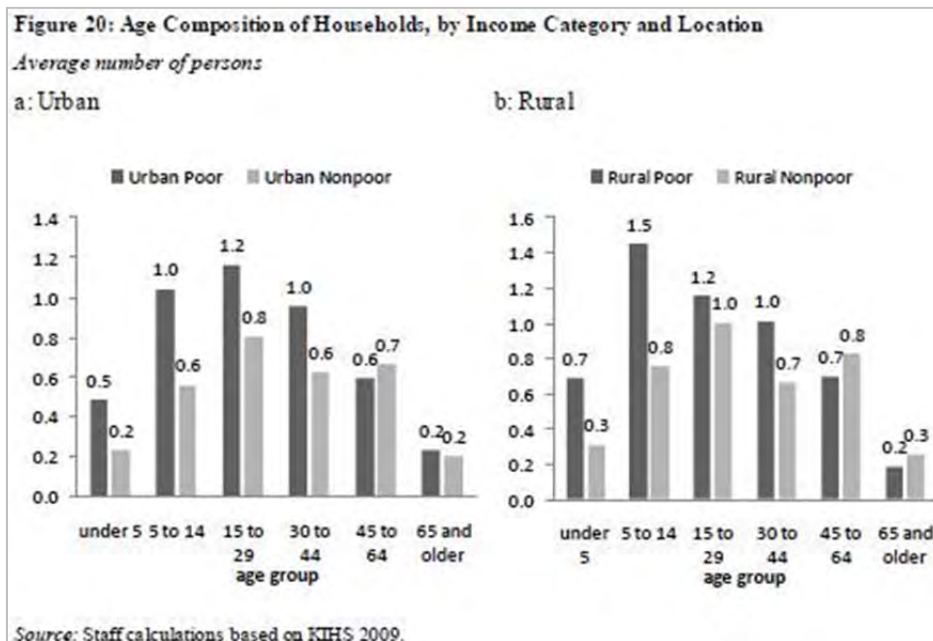
キルギスでは大家族の貧困率が高く、貧困世帯の平均的な人数は 5 名であるのに対し、非貧困世帯の平均的な人数は 3.5 人となっている。また、貧困世帯の方が、非貧困世帯より子供や青年の数が多く、子供の数が 2-3 名あるいは 4 名以上の世帯の場合、貧困世帯である率が高く、これは都市部、農村部両方にみられる傾向である。

図表 26 世帯人数と貧困の関係(2009 年)<sup>50</sup>

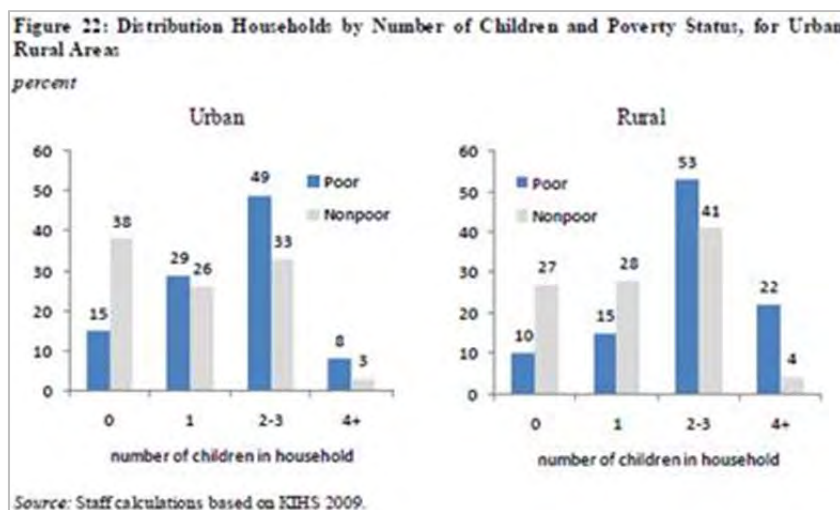


<sup>50</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, pp.14-15

図表 27 世帯主の年齢と貧困の関係 (2009年)<sup>51</sup>



図表 28 子供の数と貧困の関係 (2009年)<sup>52</sup>



## (2) 女性世帯主の世帯と貧困

農村部においては、男性世帯主の世帯の方が、女性世帯主の世帯と比較し貧困率が高い。一方、都市部においては、女性世帯主の世帯の方が、貧困率が高くなっており、統計からは、世帯主の性別と貧困の間に明確な関係性はみられない<sup>53</sup>。

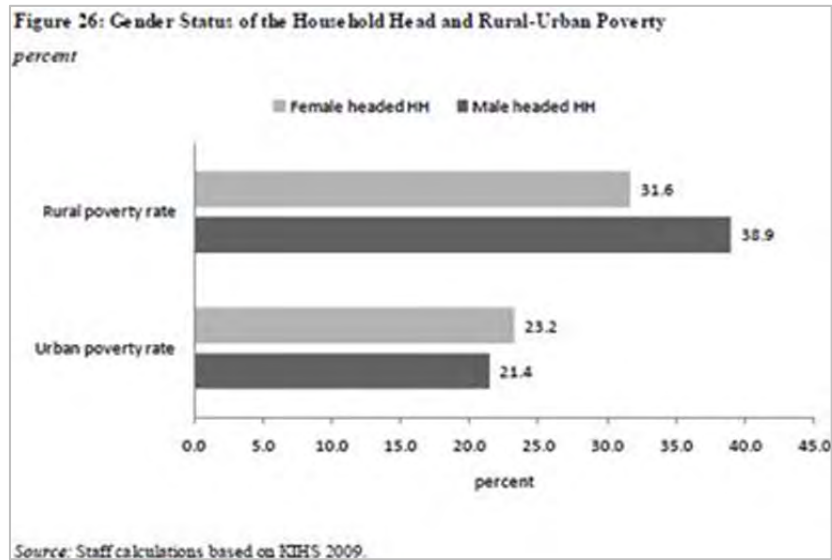
<sup>51</sup> Ibid, pp.14-15

<sup>52</sup> Ibid, p.16

<sup>53</sup> Ibid, p.20



図表 29 世帯主の性別と貧困の関係 (2009 年) <sup>54</sup>



### (3) 国内移民労働

キルギスにおいて、国内移民労働も家計の福利にとり重要な要素となっている。26%の世帯主は国内移民であり、都市部の Bishkek や Chui 州に登録された世帯主の 71%、60% は、国内移民となっている<sup>55</sup>。一方、農村部である Jalal-Abad や Batken 州へ国内移動した世帯主の割合は 1%、4%となっており、国内移民の流れは、農村部から都市部へという一方的な流れになっている<sup>56</sup>。統計によると、一人あたり消費が増加すると、農村部から都市部へと移動してきた世帯主の割合が増加している。こうした統計は、国内の農村部から都市部への移動と貧困率の低下の関係を直接的に示唆するものではないが、貧困者にとって、国内移動は、貧困の対処方法の一つと見なされていると推測される<sup>57</sup>。下図は、国内移動した世帯主の消費階層別の割合を示している。一人あたり消費の多い豊かな階層ほど、国内移動した世帯主の占める割合が高いことがうかがえる。

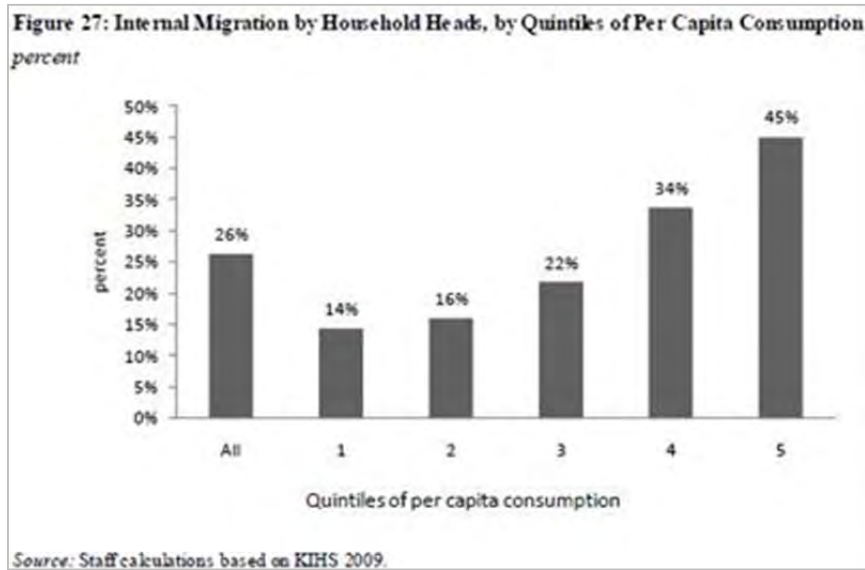
<sup>54</sup> Ibid, p.20

<sup>55</sup> Ibid

<sup>56</sup> Ibid

<sup>57</sup> Ibid

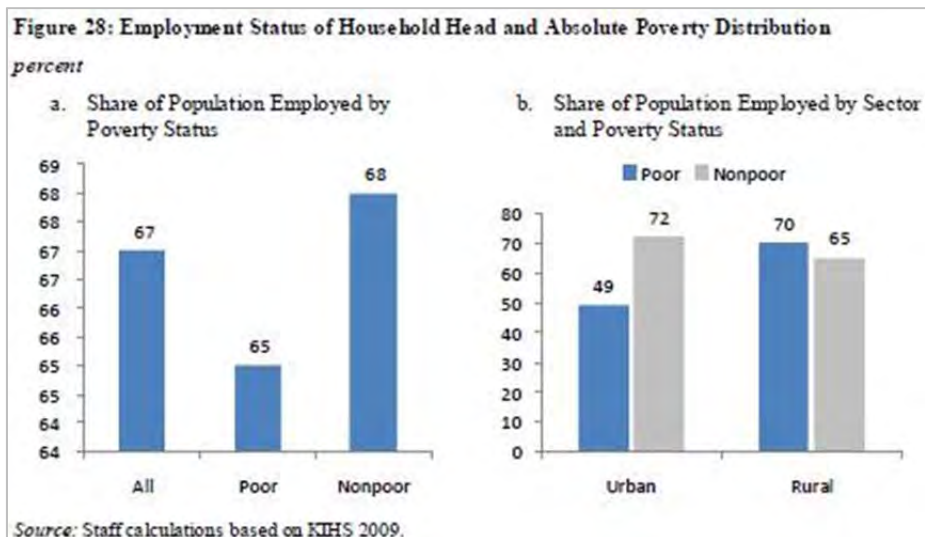
図表 30 国内移動した世帯主の消費階層別の割合（2009年）<sup>58</sup>



#### (4) 雇用と貧困

国レベルでは、貧困層の世帯主の65%は雇用されている。都市部と農村部との比較では、都市部では、貧困層の世帯主の49%が農村部では、70%が雇用されており、特に農村部では、貧困層の世帯主の中で雇用されている割合（70%）は、非貧困層の世帯主で雇用されている割合（65%）より高い。

図表 31 貧困状況別の就職状況（2009年）<sup>59</sup>



<sup>58</sup> Ibid, p.21

<sup>59</sup> Ibid, p.22

図表 32 世帯主の雇用形態と貧困の関係（2009年）<sup>60</sup>

	Nation			Urban			Rural		
	All	Poor	Nonpoor	All	Poor	Nonpoor	All	Poor	Nonpoor
At own enterprise or own commercial business	31	41	26	4	4	4	43	47	40
As a worker for wage paid in cash or in kind, or for money allowance	67	54	73	96	96	96	54	47	58
As a member of a cooperative, collective farm, agriculture cooperative	1	4	0				2	4	1
Free assistance at an enterprise owned by relatives	1	1	1				1	1	1

Source: Staff calculations based on KHS 2009.

貧困と雇用形態の関係について、国レベルで見た場合、非貧困層の世帯主の73%は給与支払いを受ける雇用形態であり、自営の割合は26%に留まっている一方、貧困層の世帯主の自営の割合は、41%と高い。これは、貧困層の世帯主が自営を選択しているというよりは、就職が難しく、最終的な生計手段として自営しているものと考えられる<sup>61</sup>。

#### (5) 教育水準と貧困

他国同様、キルギスにおいても貧困と教育レベルには相関関係がみられる。下図に見られるとおり、非識字者の63%、初等教育を受けていない人の59%は貧困層に属しており、高等教育を受けた人の貧困率（15%）とは、大きな差異がある。また、世帯主の性別に係らず、教育レベルの高い人が、一人あたり消費に基づく高い所得階層（第4、第5分位）に属する傾向がみられる。但し、キルギスに特徴的な点として、高い教育を受けることの貧困削減効果は、それほど高くないと言え、中等教育修了者が人口構成上、最も多いため、貧困層の50%は中等教育修了者となっている<sup>62</sup>。また、都市部においては、教育レベルが上がると、貧困の割合は減少する傾向がみられるが、農村部においては、教育レベルの高い人に占める貧困層の割合は都市部に比べ高くなっている<sup>63</sup>。

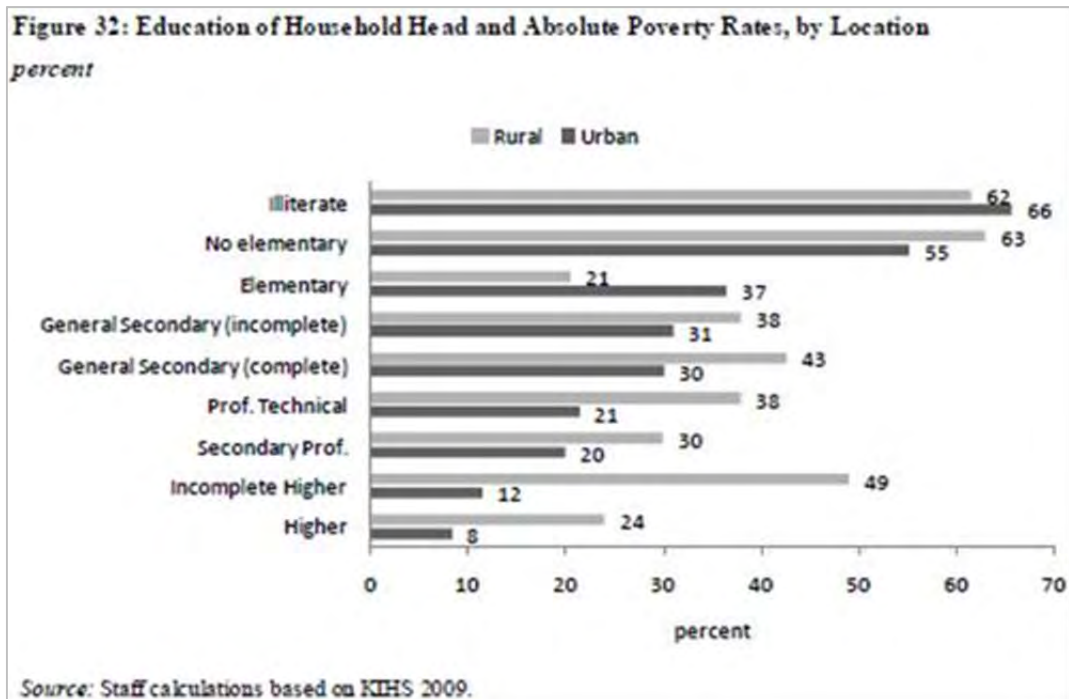
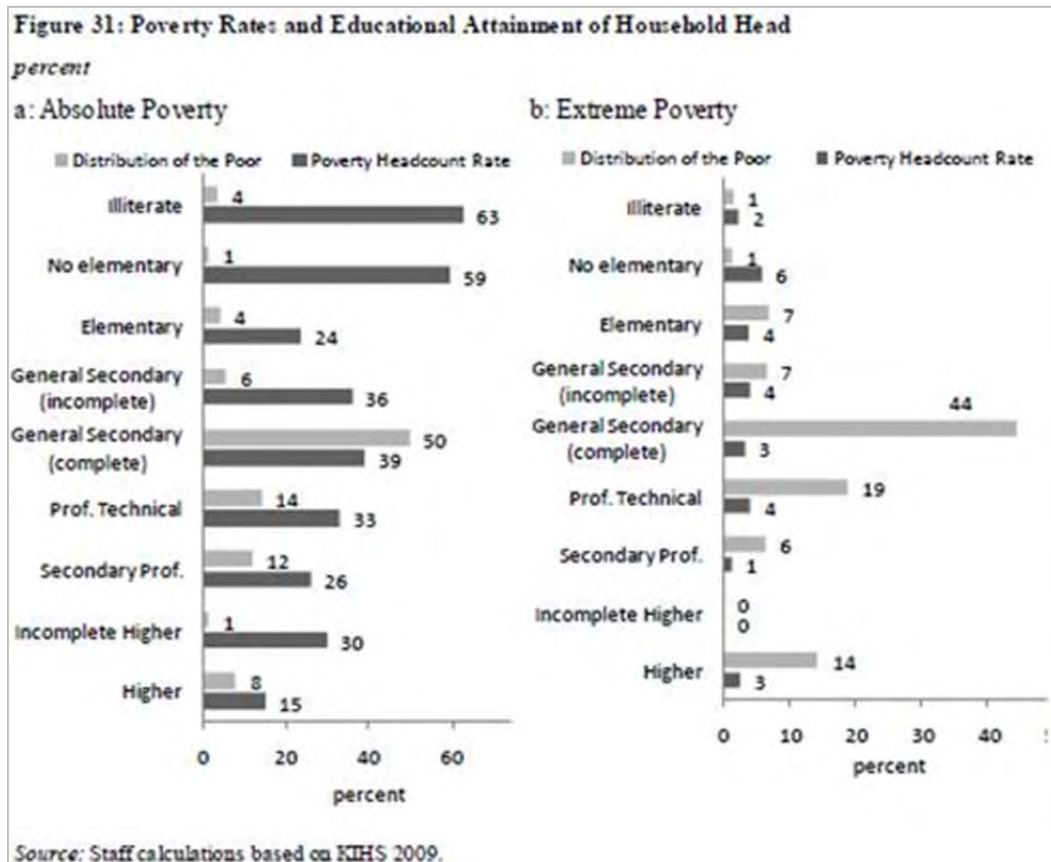
<sup>60</sup> Ibid, p.23

<sup>61</sup> Ibid

<sup>62</sup> Ibid, p.24

<sup>63</sup> Ibid

図表 33 世帯主の教育水準と貧困の関係 (2009年)<sup>64</sup>



<sup>64</sup> Ibid, p.25

図表 34 世帯主の教育水準と所得階層の関係 (2009年)<sup>65</sup>

Table 6: Education Level of Household Head, by Gender and Consumption Quintiles  
percent

Education Level	Quintiles of Per Capita Consumption									
	1		2		3		4		5	
	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female
Total	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Higher	7	6	9	13	13	13	22	18	27	29
In complete higher	2	0	0	0	1	1	1	2	3	3
Secondary professional	9	13	13	17	14	19	17	13	17	22
Professional technical	22	3	11	4	16	8	17	5	14	10
General secondary (complete)	52	48	58	37	44	33	35	42	30	25
General secondary (incomplete)	4	8	5	3	5	7	5	8	5	4
Elementary	4	8	3	12	7	17	3	10	4	6
No elementary	1	2	1	1	0	2	0	1	0	1
Illiterate	0	11	0	11	1	1	0	1	0	0

Source: Staff calculations based on KHS 2009.

図表 35 就学率および識字率(2005年-2009年)<sup>66</sup>

Youth (15-24 years) literacy rate 2004-2008*	Number per 100 population 2006		Primary school enrolment ratio 2005-2009*				Primary school attendance rate 2005-2009*		Survival rate to last primary grade (%) 2005-2009*		Secondary school enrolment ratio 2005-2009*				Secondary school attendance ratio 2005-2009*			
	male	female	Internet phones users		gross		net		admin. data	survey data	gross		net		gross			
			male	female	male	female	male	female	male	female	male	female	male	female	male	female		
Kazakhstan	100	100	95	11	108	109	88	90	99	98	99	100	101	98	88	89	97	97

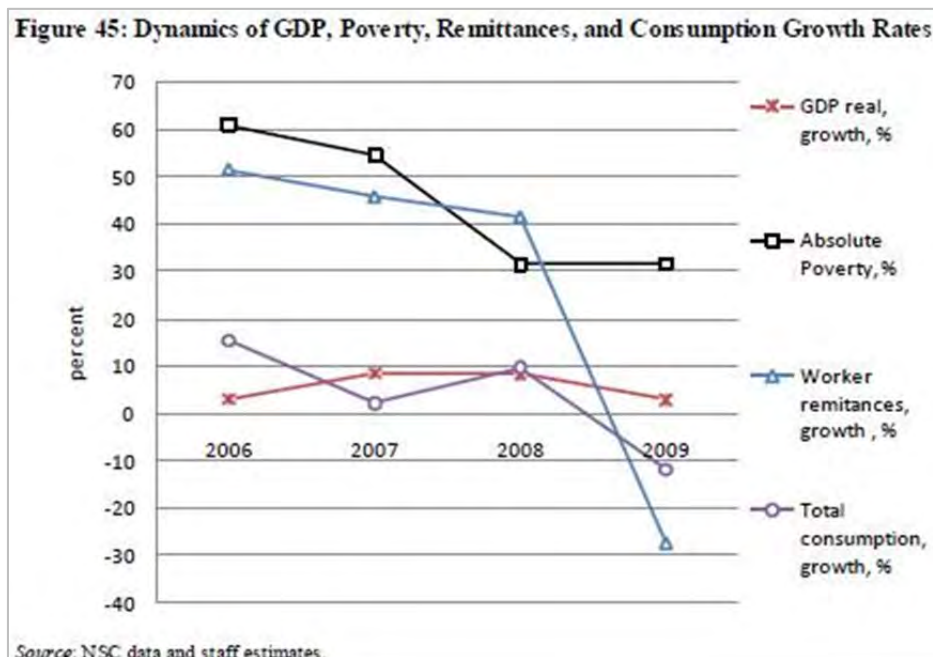
## (6) GDP、総消費、送金の増加と貧困

下図に示すとおり、2006年から2009年の間に貧困率は29.3%減少し、GDPは平均5.7%の成長を記録している。世界銀行のレポートによると、貧困率は、GDP、総消費、送金の成長を一定程度反映しているとしている。実際、GDP等がプラス成長を記録していた2006年から2008年にかけては貧困率の低下が見られる一方、GDP成長率が鈍化し、総消費や送金がマイナスとなった2009年については、貧困率の減少が停滞している。

<sup>65</sup> Ibid, p.26

<sup>66</sup> UNICEF The State of the World's Children 2011, <http://www.unicef.org/sowc2011/statistics.php> (2012/1/5アクセス)

図表 36 GDP、総消費、送金の増加と貧困の関係（2006年 - 2009年）<sup>67</sup>



## 2. 社会的に排除されているグループの存在と貧困指標との関係

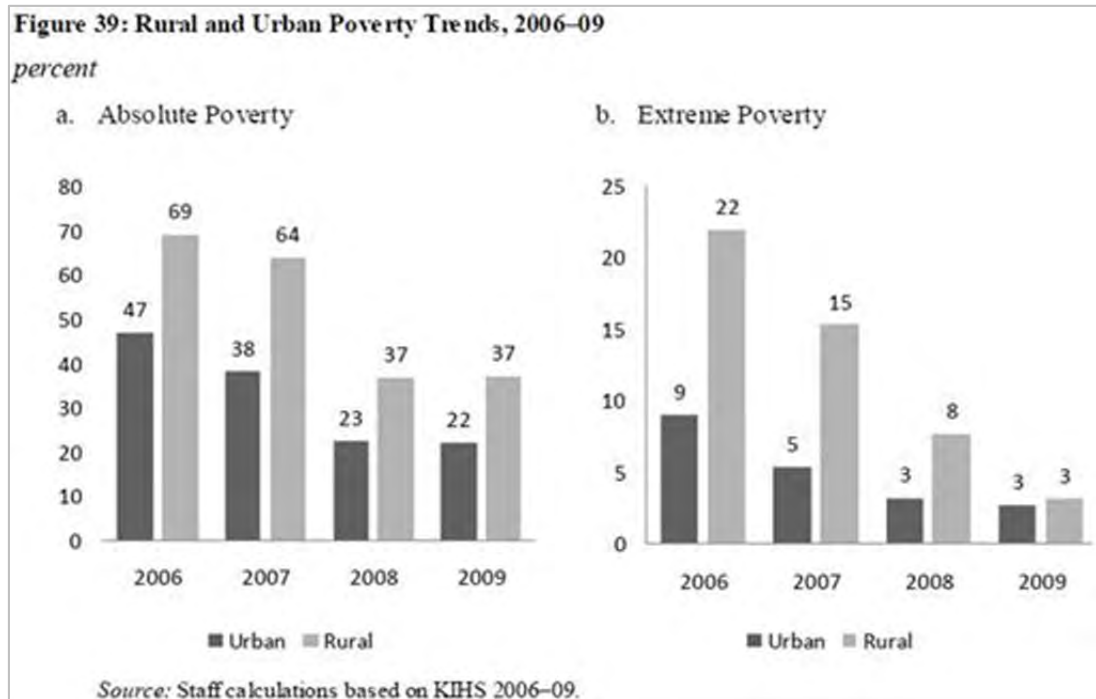
### (1) 地方・農村での貧困問題

キルギスにおいて、地方・農村部の貧困は、都市と比較し、貧困率、深さの両面でより深刻である。下図に示すとおり、2006年から2009年にかけて、貧困率は、都市部、農村部とも減少を記録しているが、農村部の貧困率は37%となっており、都市部の22%と比較し高い状況にある。貧困の深さに関しても、貧困ギャップ率は、都市部の4%に対して、農村部は7%と高くなっている。また、地方の中でも貧困の分布は一様ではなく、南部のOsh州やJalal-Abad州で貧困が広がっている。さらに、山岳部の多いキルギスでは、山岳部の貧困率が高く、特に、地理的にIssyk-Kul州やOsh州の地方部の山岳地域は、貧困に対する脆弱性が高いと指摘されている<sup>68</sup>。所得以外の貧困についても、下表に示すとおり、地方により差異がみられ、他州と比較し、南部、特にOsh州の貧困状況が深刻である。

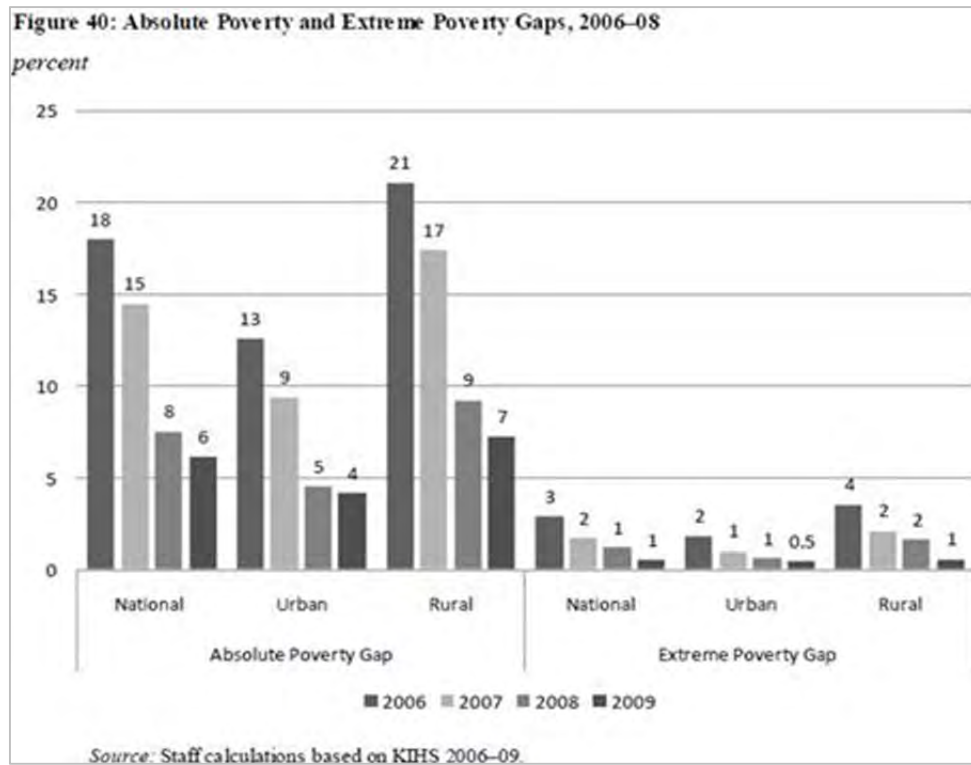
<sup>67</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.42

<sup>68</sup> Ibid, p.10

図表 37 貧困率の推移（2006年-2009年）<sup>69</sup>（再掲）



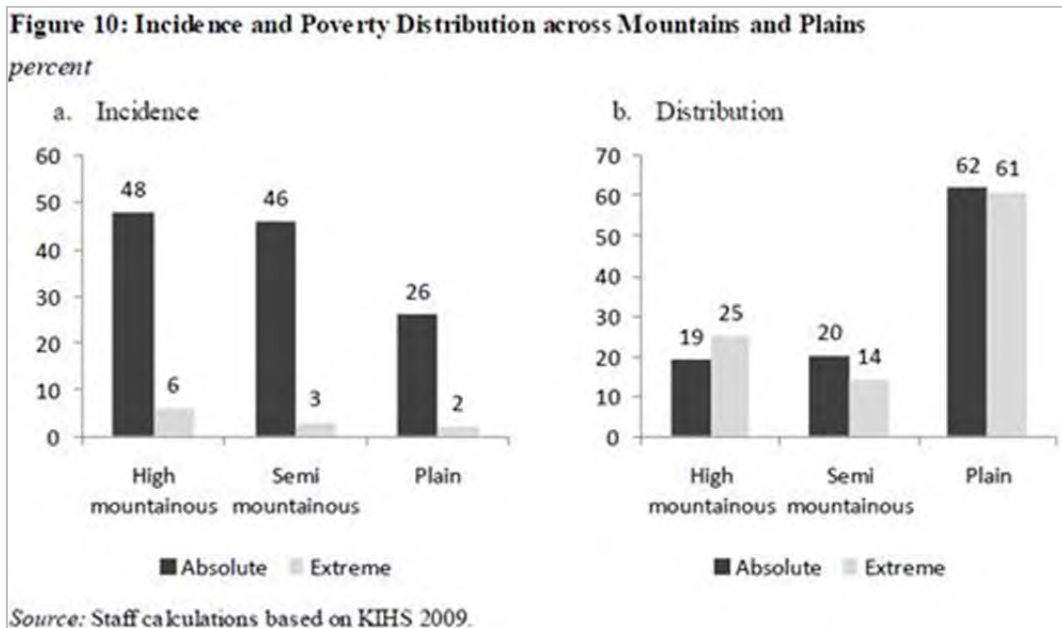
図表 38 貧困ギャップ率の推移（2006年-2009年）<sup>70</sup>（再掲）



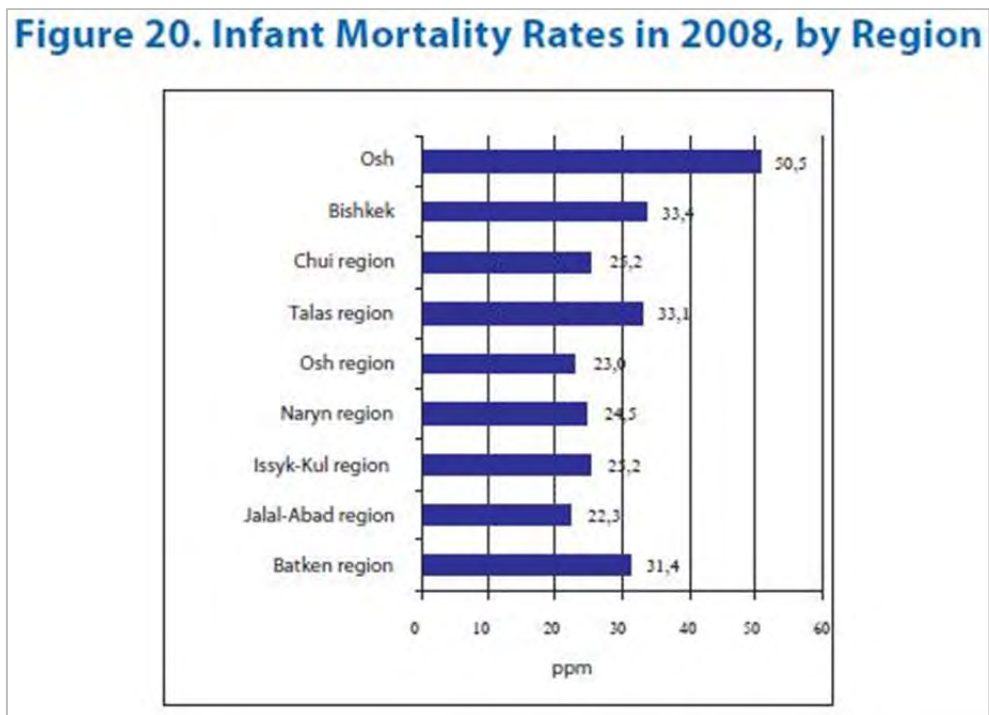
<sup>69</sup> Ibid, pp.35-36

<sup>70</sup> Ibid, p.37

図表 39 平地と山岳部の貧困の分布（2009 年）<sup>71</sup>



図表 40 地方別 MDGs 指標の状況（2008 年）<sup>72</sup>

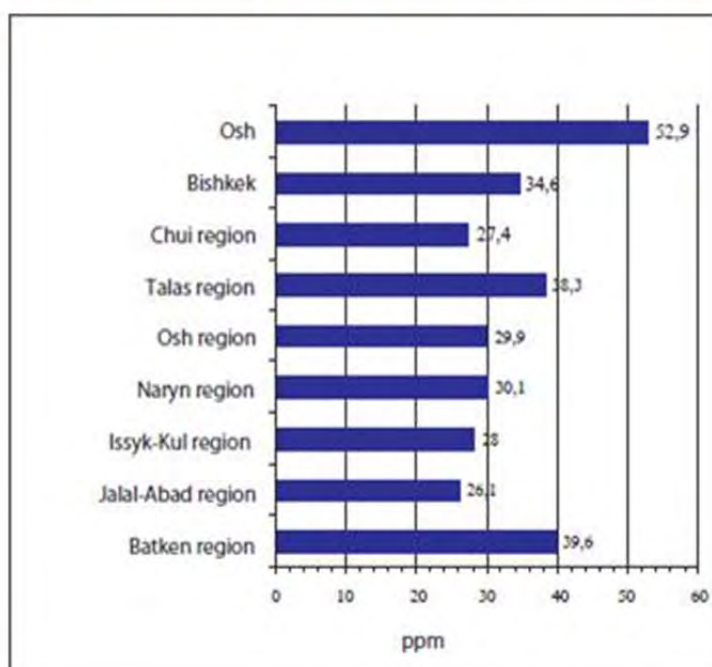


<sup>71</sup> Ibid, p.10

<sup>72</sup> UNDP (2010) Second MDG Progress Report in the Kyrgyz Republic (revised), p.38, 39, 61

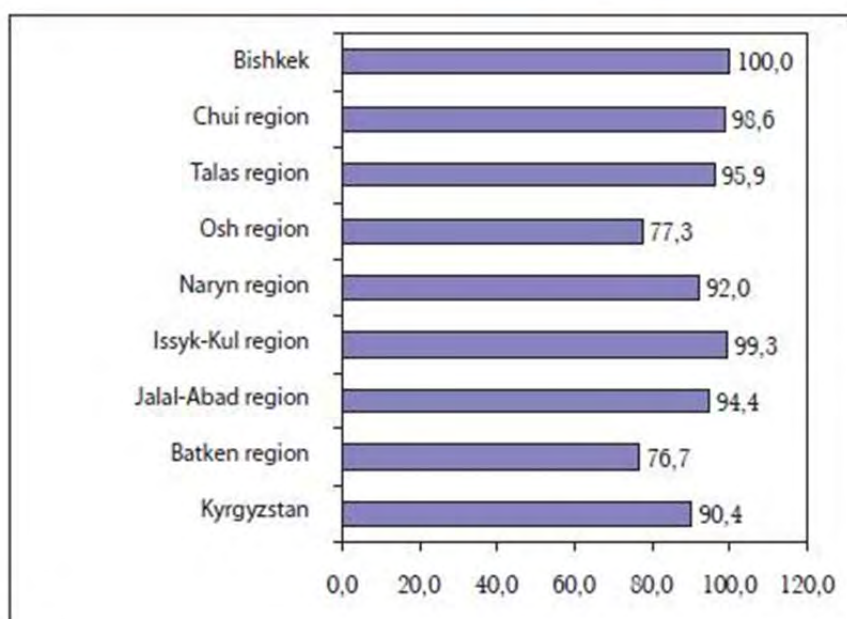


**Figure 21. Child Mortality Rates in 2008, by Region**



Source: Republican Medical and Informational Center (RMIC)

**Figure 33 Percentage of Population with Access to Safe Drinking Water in 2008, by region**



## (2) 民族間の貧困問題

キルギスは、キルギス系、ウズベク系、ロシア系、ドウンガン系等から構成される多民族国家である<sup>73</sup>。PRSP においては、経済成長には社会と政治の安定が不可欠であり、社会の安定に影響する民族の要素について、民族間の調和多民族国家における安定のための主要な前提であるとしている<sup>74</sup>。また、資金や経済資源へのアクセスの不平等、灌漑された農地の不足等が民族紛争のリスクであるとし、行政機関は民族間の調和を推進し、公務員による民族間の関係を害する職権乱用については、刑事責任を追及する姿勢をみせる一方、キルギス政府は、民族主義や地方分権主義に対抗する活動計画を策定している。

民族間の貧困については、地方において、非キルギス系住民の失業率が、キルギス系住民と比較して高いとのデータがある。また、2010年6月に南部 Osh 州において、キルギス系及びウズベク系の住民の間で民族衝突が発生し、死者 300 名以上、難民・国内避難民約 40 万人が発生する事態となり、Osh 州における食糧不安の状況は悪化を示している。

図表 41 民族間の失業の分布 (2003 年)<sup>75</sup>

Table 8: Non-Kyrgyz ethnic groups have lower employment rates, especially in rural areas.

	Share of national working age population	Employment rate	Labor force participation rate	Unemployment rate
<i>Urban</i>	38			
Kyrgyz	21	55	64	14
Russian	9	54	61	11
Uzbek	4	54	60	11
Others	4	47	57	17
<i>Rural</i>	62			
Kyrgyz	47	62	66	7
Russian	6	53	61	13
Uzbek	6	57	60	7
Others	4	52	63	18

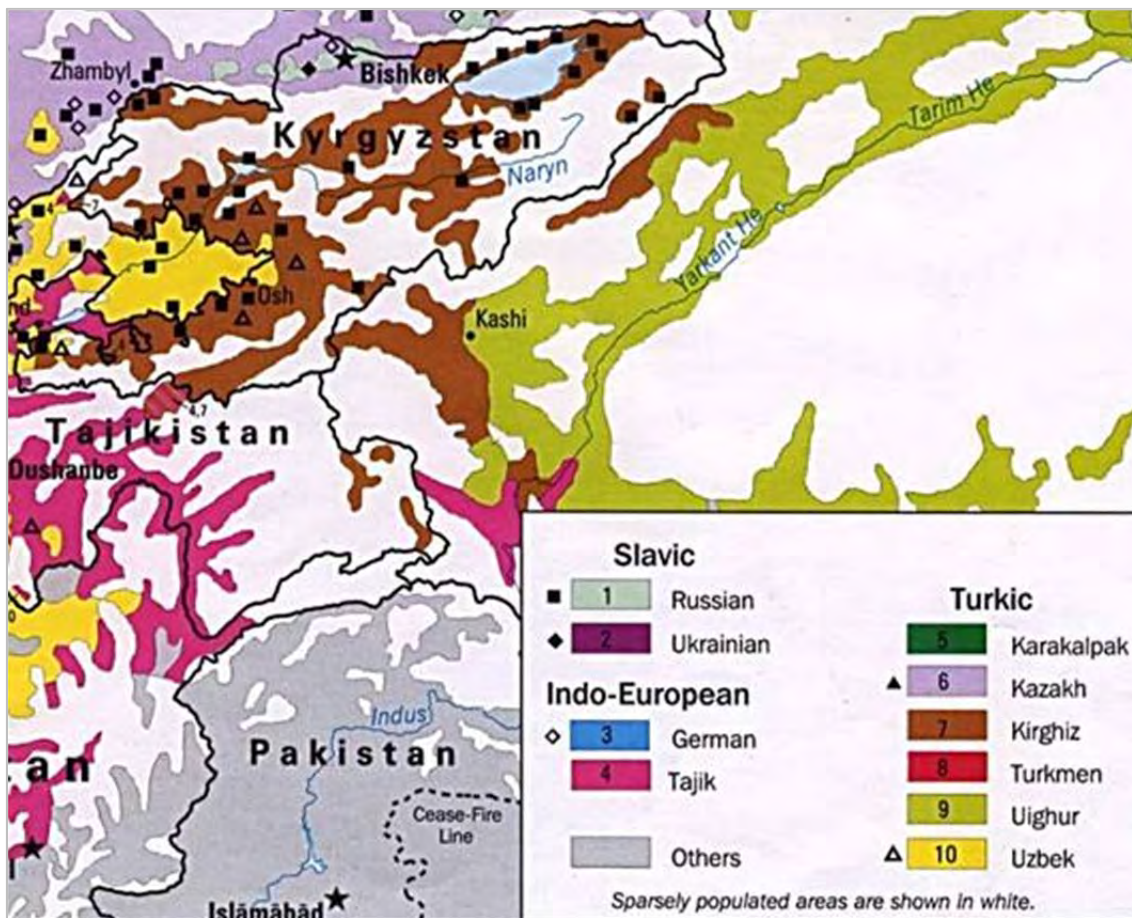
Source: Estimates based on KIHS, 2003.

<sup>73</sup> 外務省 キルギス共和国 基礎データ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kyrgyz/>

<sup>74</sup> World Bank (2007) Kyrgyz Republic: Poverty Reduction Strategy Paper – Country Development Strategy (2007 - 2010), p.10

<sup>75</sup> Ibid, p.18

図表 42 中央アジアにおける主要な民族グループの分布（1993年）<sup>76</sup>



<sup>76</sup> University of Texas at Austin, <http://www.lib.utexas.edu/maps/kyrgyzstan.html>, (2012/1/5 アクセス)

## VI. 貧困に影響を与えている要因およびリスク

### 1. 政治的な混乱

キルギスの政治は、近年、不安定な状態にあり、政治的混乱は、国内避難民の発生、経済の停滞等、直接、間接的に同国の貧困状況に影響を与えている。キルギスでは、共和国誕生後、約 15 年にわたるアカーエフ政権の下、民主化、市場経済化が進められた<sup>77</sup>。しかし、同政権での汚職や北部人材の重用等に対して批判が集まり、2005 年 3 月の議会選挙における不正疑惑を発端として、野党勢力による「チューリップ革命」が発生し、アカーエフ政権は崩壊し、南部出身のバキーエフ政権が成立した<sup>78</sup>。バキーエフ政権では、憲法改正による大統領権限の強化、親族による権益の独占が進み、さらに、2010 年 4 月には、突然の公共料金の値上げ、インフレ、社会サービスやインフラの劣化等に対する国民の不満<sup>79</sup>から、首都および地方各地で反政府集会が発生し、治安当局との衝突の末、大統領を辞任に追い込み、暫定政府が発足した。

2010 年 4 月のバキーエフ政権崩壊は、キルギス族、タジク族、ウズベク族等、各民族がモザイク状に混在する南部に権力の空洞をもたらし、暫定政権発足後も、国内の混乱は続いた。地場の政治家の中には、地位を保全するため、民族感情を煽る者が現れ、政治的、社会的緊張が高まった 2010 年 6 月には、南部 Osh 州において、キルギス系及びウズベク系の住民の間で民族衝突が発生し、公共資産や個人資産、特に住宅の大規模な破壊、死者 300 名以上、約 40 万人の難民・国内避難民が発生した<sup>80</sup>。民族衝突の暴力的な混乱は、短期間で収束したが、コミュニティ内の緊張や、中央による南部統治の継続に対する緊張は続いている。さらに、こうした民族衝突は、民間セクターの信用低下を招き、経済や財政への圧力となっている<sup>81</sup>。民族衝突の要因について、世界銀行は、複数の永続的な社会の不満が要因であるとし、脆弱なガバナンス、汚職、説明責任の欠如、縁故主義等に加え、高い失業率、低い社会指標、脆弱且つ地域的に偏りのある治安維持を含む社会サービスの提供に伴う南部のコミュニティの緊張等を挙げている<sup>82</sup>。さらに、農地、灌漑、牧草地等、生産資源を巡るコミュニティ間の競合も要因として挙げられている<sup>83</sup>。

キルギス政府は、衝突後の社会の融和を進めるため、以下の 4 点を優先事項としている<sup>84</sup>。

- ・ 成長支援（衝突は、国内需要に影響し、必要不可欠な歳出削減を招く、歳入低下が推測される。そのため、財政赤字目標の緩和、必要不可欠な復興、復旧のための対外支援の要請を実施）
- ・ 必要不可欠な公共支出（公共支出を分類するための活動を実施し、給与、社会扶

<sup>77</sup> 外務省(2010) 国別データブック キルギス

<sup>78</sup> Ibid

<sup>79</sup> World Bank (2011) Interim Strategy Note for the Kyrgyz Republic for the period FY12-FY13, p.4

<sup>80</sup> 外務省 キルギス共和国 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kyrgyz/data.html>

<sup>81</sup> Ibid, p.4, p.11

<sup>82</sup> Ibid, p.5

<sup>83</sup> Ibid

<sup>84</sup> Ibid, p.11-12

助、年金、公共料金、食品・医薬品の調達)の確保

- ・ 国内避難民や脆弱な人々のニーズへの対応（南部の復旧・復興、包括的な融和を推進する損害評価のための委員会を設置。戦略は、破壊された住居の再建、インフラの復旧、企業活動や家計の復興、脆弱な人々に対する現金給付、公共事業を含む)
- ・ ガバナンス強化（ガバナンス強化のため、説明責任に関する高い基準の策定、公共資産管理や予算支出に関する確実な管理の実施)

また、混乱は経済の停滞を招くだけでなく、食糧安全保障の面でも大きな影響を与えている。WFPの2011年2月の調査によると、キルギス南部のOsh、Jalalabad、Batkenの食糧不安は、他州より深刻となっており、こうした混乱が、貧困に大きな影響を与えるリスク要因となっている。さらに、既存の社会的保護は、避難民に対し、身分証の不備を理由に支援を拒否する等、柔軟性に欠けることが指摘されている<sup>85</sup>。

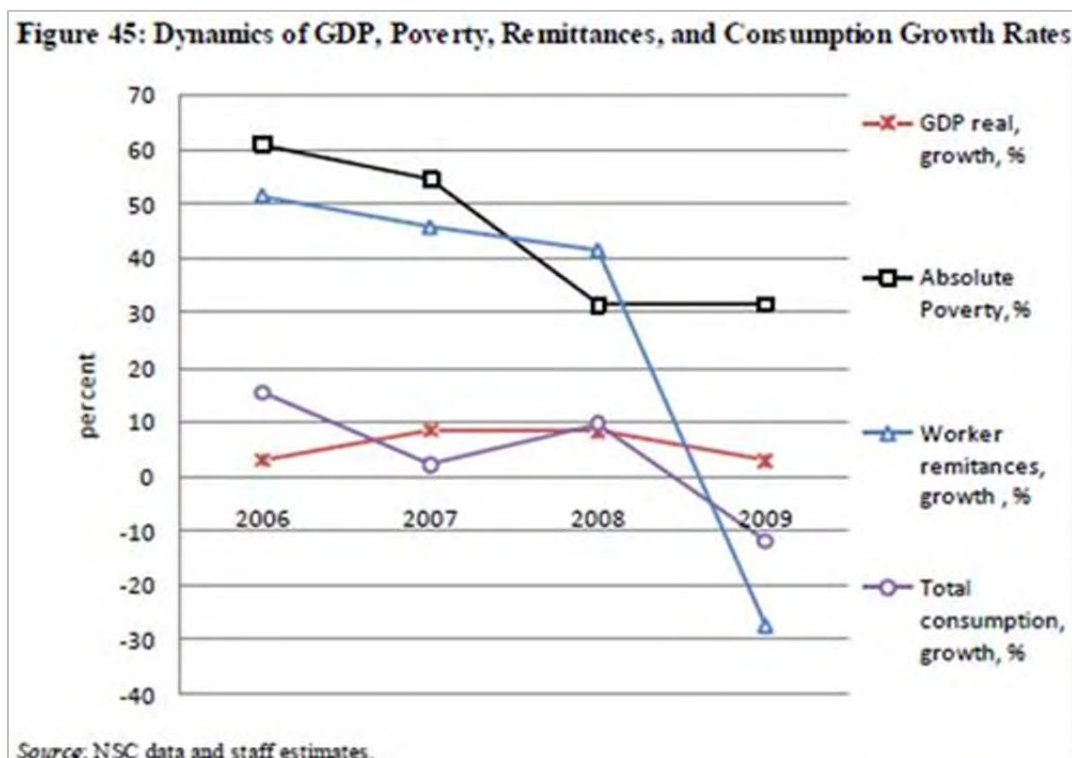
## 2. 市場経済化の進展とマクロ経済の推移

市場経済化を通じた経済の成長は、貧困削減の観点からも重要である。中期開発プログラムでは、経済発展の阻害要因として、汚職や規制を挙げており、公務員の給与が低水準であること、起業を妨げる数多くの規制の存在などが汚職蔓延の背景にあるとしている。また、重複する法令・規制の多さ、適用法のあいまいさ等のために、持続的な経済成長が妨げられているとの指摘もあり、規制緩和も重要視されている。貧困率の推移は、マクロ経済の動向と関係しており、GDP等がプラス成長を記録していた2006年から2008年にかけては貧困率の低下が見られる一方、GDP成長率が鈍化し、総消費や家計の消費に影響を与える送金がマイナスとなった2009年については、貧困率の減少が停滞している。こうしたことから、汚職の削減や規制緩和が進展せず、市場経済化が滞り、経済成長が鈍化することは、貧困層に負の影響を与える可能性が高い。

---

<sup>85</sup> UNDP (2010) Second MDG Progress Report in the Kyrgyz Republic (revised), p.91

図表 43 GDP、総消費、送金の増加と貧困の関係(2009年)<sup>86</sup> (再掲)



### 3. 近隣経済（ロシア等 CIS）の景気後退による送金の減少

図表 49 で後述するとおり、Bishkek、Chuy では他州より食糧不安の割合が低い。食糧不安の割合が低い背景として、Chuy における自給自足による良好な食糧アクセス、Bishkek における所得獲得機会に加え、出稼ぎ労働者からの送金が挙げられている<sup>87</sup>。外国への出稼ぎ労働の特徴としては、教員、医師、エンジニア等の背門職に加え、溶接工、旋盤工、左官、電気工等の職種にも高い需要がある<sup>88</sup>。海外への出稼ぎ労働者に占める 15 歳から 19 歳の若い労働者の割合は少ないが、若い出稼ぎ労働者は Osh 州、Jalal-Abad 州、Chui 州の農村部出身が多く、ロシアやカザフスタンへの出稼ぎが多い<sup>89</sup>。キルギスから海外への出稼ぎ労働者の数は、50 万人から 80 万人と推測され、こうした出稼ぎ労働者による海外からの送金は、GDP の 25-30% にのぼると見られている<sup>90</sup>。金融危機に伴う世界的な景気低迷を経験した 2009 年は、ロシアやロシアを含む CIS 全体からの送金は、金融危機前後ではそれぞれ、11 億 1,300 万米ドルから 8 億 6,300 万米ドルへ、14 億 1,000 万米ドルから 8 億 9,400

<sup>86</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.42

<sup>87</sup> Ibid, p.7

<sup>88</sup> IOM, Migration and development in Central Asia, Kyrgyzstan,

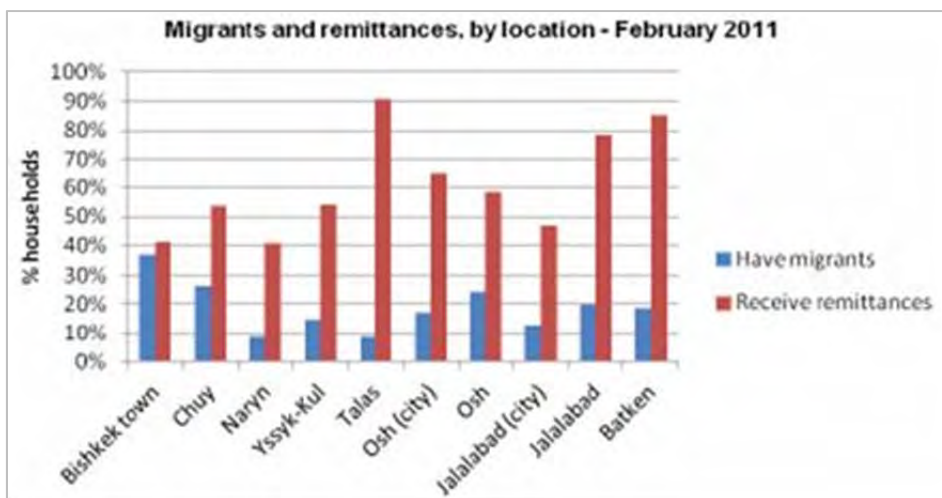
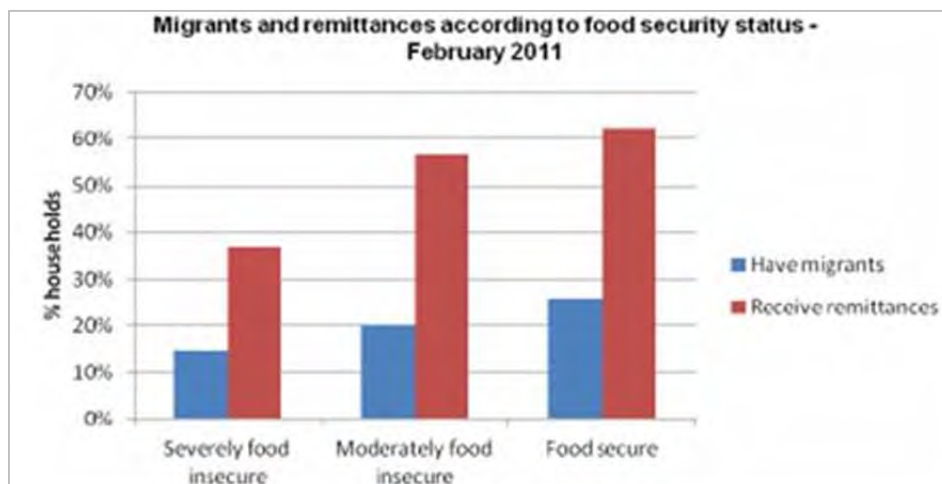
[http://www.iom.kz/pubs/Migration%20and%20Development\\_en.pdf](http://www.iom.kz/pubs/Migration%20and%20Development_en.pdf) (2012/1/6 アクセス)

<sup>89</sup> UNDP (2009,2010), Kyrgyzstan National Human Development Report, Successful Youth - Successful Country, p.34

<sup>90</sup> IOM, Migration and development in Central Asia, Kyrgyzstan

万米ドルへと減少<sup>91</sup>しており、海外への出稼ぎ労働者からの送金の減少もリスクの一つと考えられる。

図表 44 移民労働、送金と食糧安全保障 2011 年（全国、州別）<sup>92</sup>



#### 4. 穀物価格の上昇

WFP の報告書によると、小麦は、エネルギー摂取量の平均 40%を占めているが、国際価格の上昇や、キルギスの国内情勢により、2010 年 6 月から 12 月にかけて 54%の上昇を記録している<sup>93</sup>。こうした主たるエネルギー源である穀物の価格上昇は、家計の購買力を低下させ、その結果、カロリー摂取量の減少、医療費等の削減に繋がるとされている。

<sup>91</sup> National Bank of the Kyrgyz Republic (2011) Remittances of individuals made through the money transfer system <http://www.nbkr.kg/index1.jsp?item=1785&lang=ENG>

<sup>92</sup> WFP (2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic. <http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp235564.pdf>

<sup>93</sup> Ibid, p.41

## 5. 国家財政

キルギス政府は、貧しい農民に対する種子や技術の提供、資金支援を行っているが、予算的制約により、農業支援ニーズに対して 30-40%程度しかカバーできていないとの指摘がある<sup>94</sup>。また、2011年の支出は 65%増加し、財政赤字は 209 億 KGS に到達し、歳入を 20% 超えており、2012年には、財政赤字は、GDP の 7.5%に相当する 223 億 KGS になると推測されている<sup>95</sup>。中期開発プログラムでは、支出増加の原因として、国防や法執行機関職員の給与の増額、教育・社会・文化セクターの職員給与の増額、南部地域のリハビリテーションと開発プロジェクトへの支出増加を挙げており、財政政策の最適化を謳っている<sup>96</sup>。こうした財政環境の中で、社会保障や小農に対する支援が持続的に実施、拡充されるかは不透明であり、財政状況はリスク要因の一つと考えられる。

## 6. 人口学的リスク

キルギスは若年人口の多い国である。失業率は、統計上は近年、8%台で推移しているが、南部や若年層の失業率はさらに高いとの指摘もある。世帯主の年齢が若い世帯の貧困率は高い傾向がみられており、今後も若年層に対する雇用が確保されない場合、政治に対する不満が高まり、再び混乱が生じる可能性も否定できない<sup>97</sup>。若年層人口が多いことは、長所にもなり得るが、適切な雇用が生み出されない場合、貧困に影響を与えるリスク要因ともなり得る。若年層の雇用能力を上げる職業訓練等に加え、実際の雇用を生み出す政策、ビジネス環境の整備が期待される。

---

<sup>94</sup> World Bank (2007) Kyrgyz Republic: Poverty Reduction Strategy Paper – Country Development Strategy (2007 - 2010), p.28

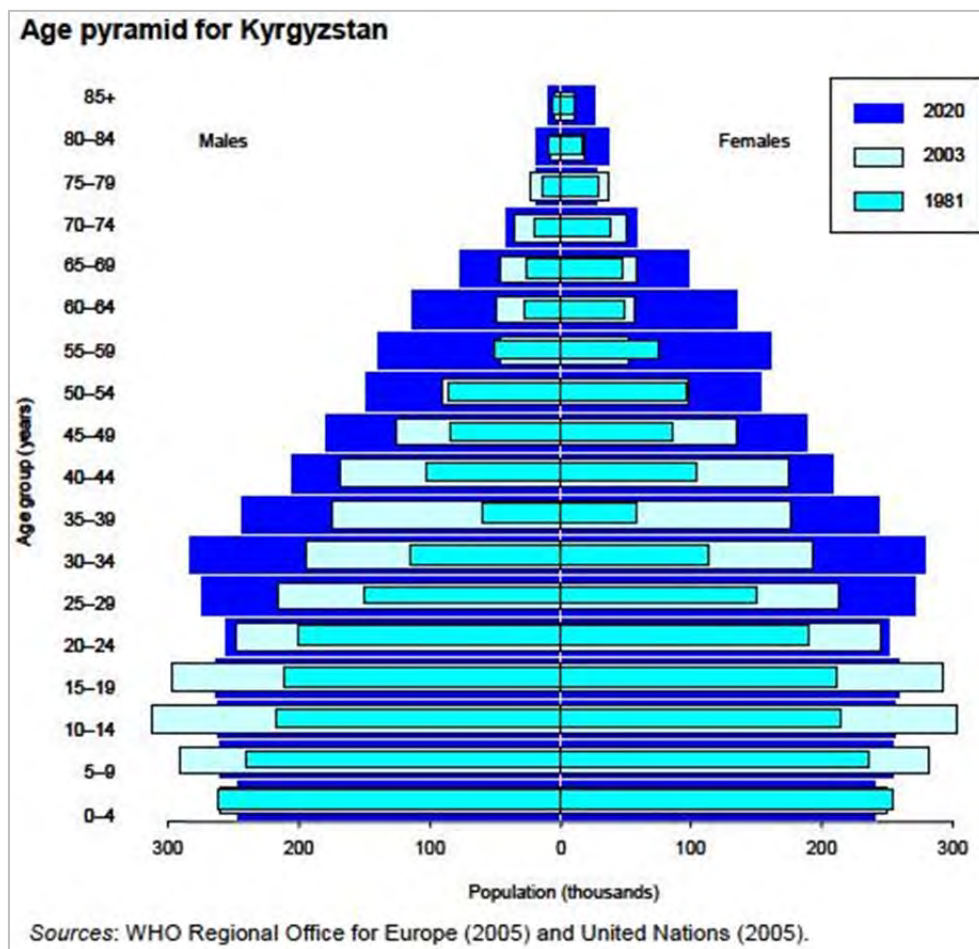
<sup>95</sup> Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 – 2014, Paragraph 42

<sup>96</sup> Ibid

<sup>97</sup> ACTED (2011) Employment opportunities for youth in Kyrgyzstan  
<http://www.acted.org/en/employment-opportunities-youth-kyrgyzstan>



図表 45 人口ピラミッド<sup>98</sup> (1981,2003,2020 年)



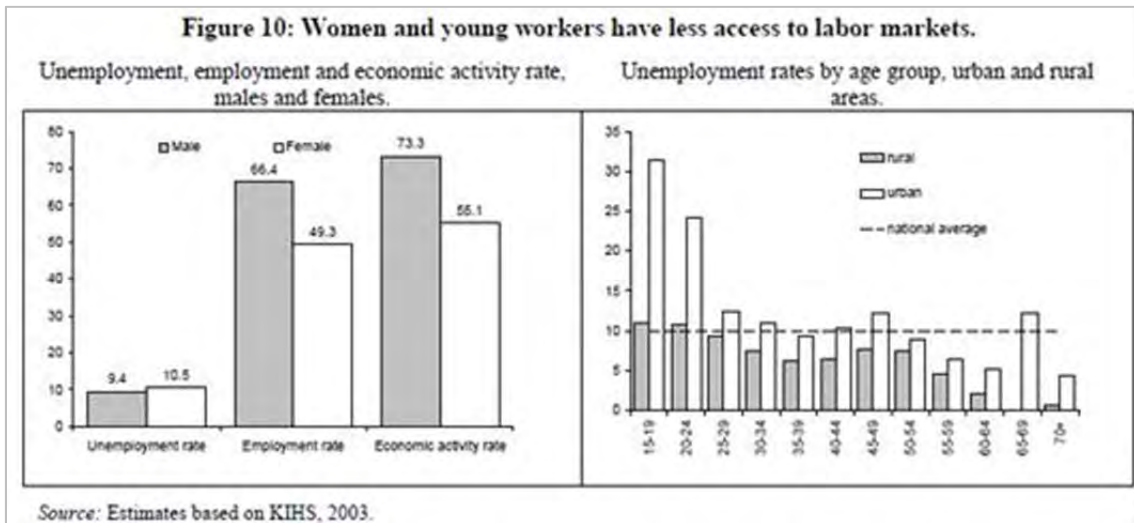
図表 46 失業率の推移 (2006 年-2009 年)<sup>99</sup>

	2006	2007	2008	2009
Unemployment rate (% of labor force)	8.3	8.2	8.2	8.4

<sup>98</sup> WHO (2006) Highlights on health in Kyrgyzstan 2005, p.27  
[http://www.euro.who.int/\\_data/assets/pdf\\_file/0008/103211/e88739.pdf](http://www.euro.who.int/_data/assets/pdf_file/0008/103211/e88739.pdf)

<sup>99</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p.2

図表 47 若年層の失業状況 (2003 年)<sup>100</sup>



<sup>100</sup> World Bank (2007), Kyrgyz Republic: Poverty Assessment Volume 2: Labor Market Dimensions of Poverty, p.17

## VII. JICA の優先課題における貧困

### 1. 地方幹線道路・輸送インフラ

キルギスは、ユーラシア大陸の中央に位置し、歴史的にも交通の要所にあたる<sup>101</sup>。内陸国であるキルギスにとって、運輸インフラを整備し、物流を促進することは経済発展にとり重要である<sup>102</sup>。また、運輸インフラの整備は、鉱工業、観光、農業等、他の経済分野や地域振興への波及効果の観点からも重要である<sup>103</sup>。

キルギスの道路の総距離は、約 3 万 4,000km であり、このうち、国際的に重要な道路は 4,163 km、国レベルの主要道路は 5,678 km、地方レベルの主要道路は 8,969 km となっている<sup>104</sup>。また、8 つのルートから構成されるキルギスの輸送回廊の総距離は 2,242km となっており、そのうち 250km の道路状態は満足とは言えず、1,357km の道路状態は悪いか、非常に悪いと分類されている<sup>105</sup>。こうした輸送インフラの状況は、輸送時間や燃料コストの増加につながるため、運送業者は過積載に寛容となり、その結果、道路を傷める等、既存道路の更なる状態悪化を招いている。また、輸送コストの上昇は、ビジネスにとって負担となり、国の経済に直接的、間接的に悪影響を与えている。こうした背景を踏まえ、PRSP では、道路網の建設、補修を優先分野の一つに位置づけており、具体的な開発の方法として、以下を挙げている<sup>106</sup>

- ・ 道路事業企業の監理担当官や管理職の構成、体制の最適化
- ・ 道路維持管理、定期修繕を通じた道路コンディションへの支援提供
- ・ Issyk-Kul 環状道路リハビリテーションに対する詳細計画の策定
- ・ 道路建設機械の供給
- ・ タジキスタン国境の村の境界にそったバイパス道路建設のためのデザイン策定
- ・ Bishkek – Osh 間等、複数区間の道路リハビリテーション
- ・ ウズベクスタン - キルギスタン - 中国を結ぶ鉄道建設のための実現可能性調査

更に、現行の中期開発プログラム（2010-2014）においても、2012 年からの 3 年間で実施する 40 の国家プロジェクトのうち、10 プロジェクトは道路・輸送インフラ関係となっており、金額も 25 億米ドルと 40 プロジェクトの予算の約 30%を占めている<sup>107</sup>。

<sup>101</sup> 外務省（2009），対キルギス国別援助計画，p.4

<sup>102</sup> Ibid

<sup>103</sup> Ibid, p.5

<sup>104</sup> World Bank (2007) Kyrgyz Republic: Poverty Reduction Strategy Paper – Country Development Strategy (2007 - 2010), p.41

<sup>105</sup> Ibid

<sup>106</sup> Ibid, pp.20 - 121

<sup>107</sup> Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium - Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 - 2014, Paragraph 32

図表 48 主要道路と世界銀行の支援（2011年）<sup>108</sup>



## 2. 農業・農村開発

キルギスにおいて、農業及び関連加工産業は最も重要なセクターの一つである。農業セクターは、GDP の約 4 分の 1 を占め、経済活動人口の約半数が農業に従事している<sup>109</sup>。経済における農業の重要性が高い一方、耕作に適した農地は比較的小さく、国土の 6.6% に留まっている<sup>110</sup>。キルギス政府は、貧しい農民に対する種子や技術の提供、資金支援を行っているが、予算的制約により、農業支援ニーズに対して 30-40% 程度しかカバーできていないとの指摘がある。キルギスでは、旧ソ連崩壊後、大規模集団農場制度が解体され、農地の私有化が認められ、小農化が進んだため、営農規模は小さく、収益性は低くなっている。

PRSP では、農業セクターの問題として以下を指摘している。

- ・ 必要な資金の不足。それに伴う新規機器購入の減少と生産者の資産の物理的消耗による生産、収入の減少
- ・ 農作物の質低下を招く粗放的な農業経営が主流化することによる、農村部における小農の管理能力の低下、
- ・ 農作物や加工品の比較優位の欠如と、それに伴う、マーケティング、輸出の困難
- ・ 人口学的・人的資源ポテンシャルの問題、専門家の不足等

上記の点を踏まえ、PRSP では、農業セクターの開発の阻害要因として、1)適切なローンへの限定的なアクセス、2)マーケティング機能の弱さ、農作物や加工品販売のための収益性

<sup>108</sup> World Bank (2011) Project Paper on a National Road Rehabilitation (Osh - Batken - Isfana) Project, p.27, [http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2011/06/10/000333037\\_20110610004706/Rendered/PDF/612620PJPR0P120e0only0900BOX361483B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2011/06/10/000333037_20110610004706/Rendered/PDF/612620PJPR0P120e0only0900BOX361483B.pdf) (2012/1/6 アクセス)

<sup>109</sup> FAO/WFP (2010) Crop and Food Security Assessment Mission to Kyrgyzstan, p.7

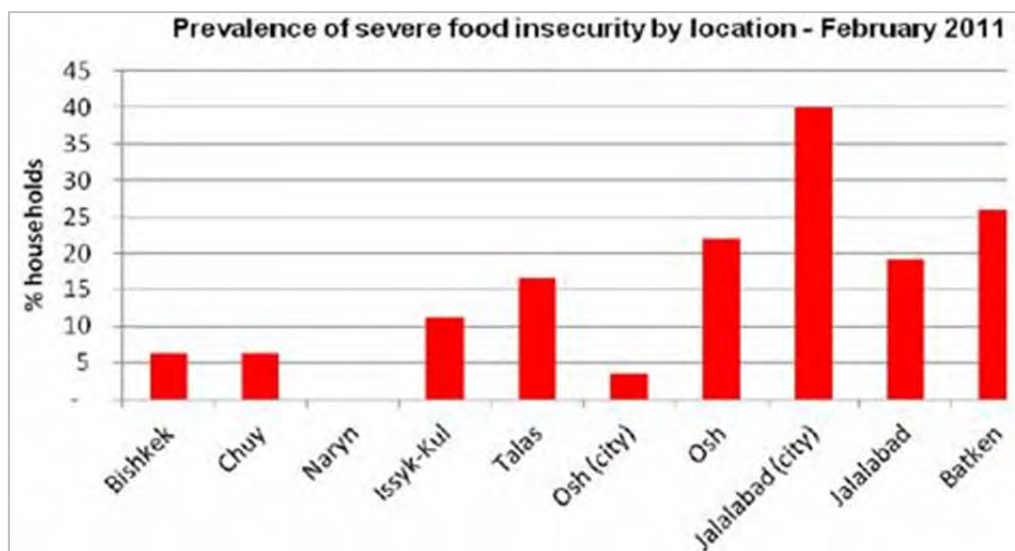
<sup>110</sup> World Bank (2007) Kyrgyz Republic: Poverty Reduction Strategy Paper – Country Development Strategy (2007 - 2010), p.28

のある市場の欠如を挙げており、2)は、購買価格の低さ、低労働生産性、低生産収率を含んでいる。また、PRSPでは、農業に関連する加工産業は、5万人を超える雇用を創出<sup>111</sup>しており、加工産業が農業開発の推進役となるべきとし、加工産業の開発を優先分野としている<sup>112</sup>。

既述のとおり、貧困の分布は一樣ではなく、貧困は都市部よりも農村部で多く見られ、キルギスでは貧困層の76%が農村部で生活している<sup>113</sup>。貧困層に属する農民は、土地や家畜へのアクセスがない、或いは、土地や家畜を所有していても面積が小さく家畜数も少なく数か月分の自給自足分を確保できないという課題を抱えている<sup>114</sup>。また、現金へのアクセスが限られており、現金収入が不定期であるという課題にも直面している<sup>115</sup>。

農村部の貧困率は都市部よりも高く、食糧不安についても、都市部の6%に対し、農村部は18%となっており、農村部の食糧安全保障の改善に資する農村開発が期待される。また、食糧不安の世帯は、そうでない世帯と比較し、現金収入を得ている世帯メンバーの数が少なく、食糧不安の世帯の約半数は、現金収入を得ている世帯メンバーの数は1名となっている。さらに、食糧安全保障の状況は時期によっても異なり、備蓄食糧が無くなり、季節労働の機会も減少し、食糧価格が上昇する収穫後の冬季、春先の時期が最も厳しい時期となっている。こうした食糧不安の状況に対して、貧困層は、食事回数の減少、食事量の削減等、健康や栄養状態への影響が懸念される手法で対処していることが指摘されている<sup>116</sup>。上記より、食糧安全保障向上のためには、生計の柱を多様化する取組みが求められていると考えられる。

図表 49 食糧不安の分布状況 (2011年)<sup>117</sup> (再掲)



<sup>111</sup> Ibid, p.28

<sup>112</sup> Ibid, p.29

<sup>113</sup> Ibid, p.28

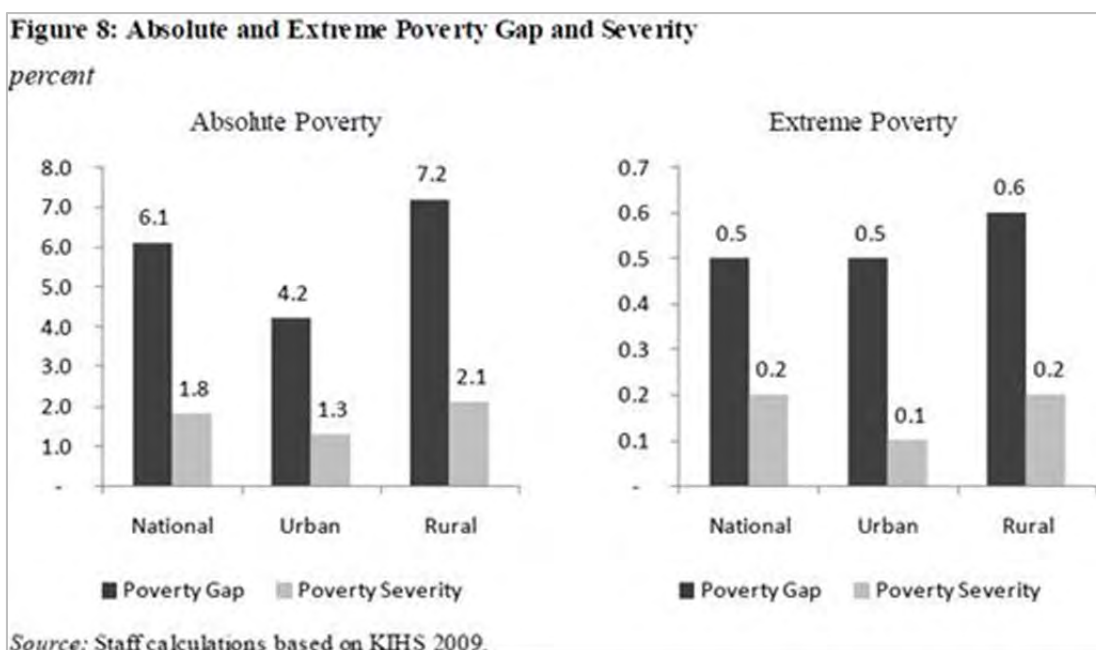
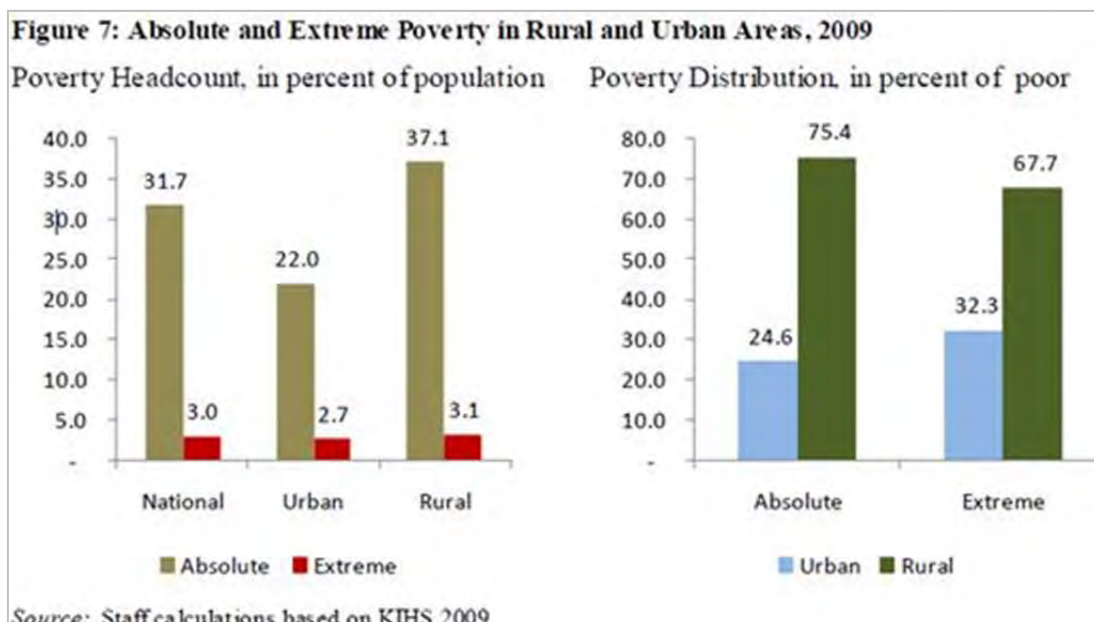
<sup>114</sup> WFP (2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic, pp.i - ii

<sup>115</sup> Ibid

<sup>116</sup> Ibid, p.ii

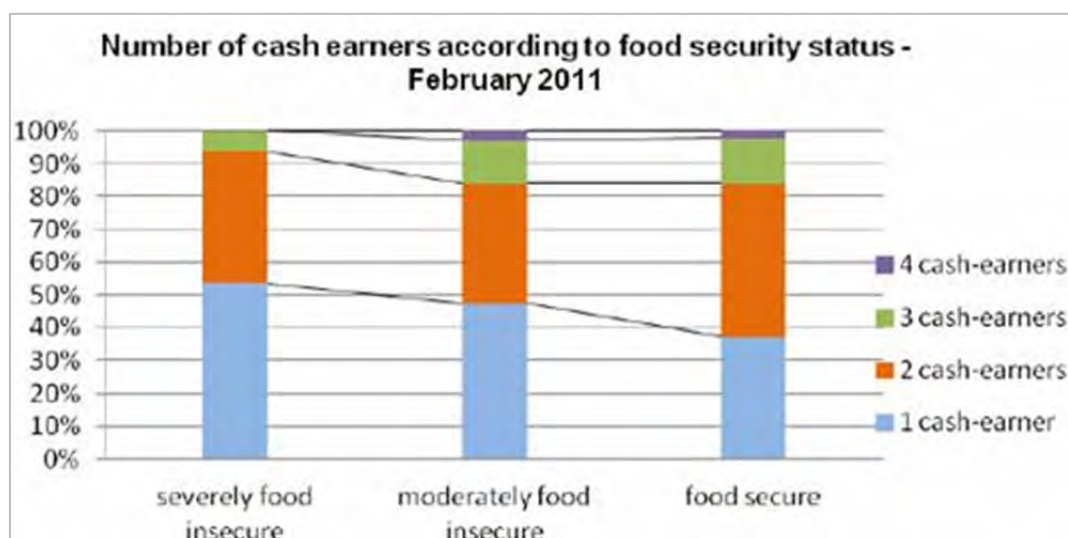
<sup>117</sup> WFP (2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic, p.6

図表 50 都市部と農村部の貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率（2009年）<sup>118</sup>（再掲）



<sup>118</sup> World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009, p7.

図表 51 現金収入を得ている世帯メンバーの数と食糧安全保障の状況（2011年）<sup>119</sup>



### 3. 市場経済化のための人材育成

キルギスは、1991年の独立以来、民主化及び市場経済化を軸とした改革路線を打ち出し、1998年にはWTOに加盟するなど、市場経済化を推し進めている。しかしながら、市場経済化は、未だ成熟した段階に到達しておらず、中期開発プログラムの目的として、ビジネス環境の改善が謳われている<sup>120</sup>。同プログラムでは、開発環境の改善の中で、優先順位の第一位に汚職の削減を掲げ、現在、世界の183の国と地域の中で164位<sup>121</sup>に位置付けられる汚職の改善を目指している。また、経済政策を自由化し、規制緩和を通じて、国の開発を推進することを汚職削減の次の優先課題に挙げている。持続的な貧困削減には、経済の持続的な成長が不可欠であり、市場経済化に対応した行政を担える人材や、起業家の育成が貧困削減の観点からも必要であると考えられる。実際、ILOの報告書では、失業の削減、農業からより生産性の高いセクターへ、自営業から会社員へ、インフォーマル経済からフォーマル経済への労働者のシフトが、貧困削減に資すると指摘しており、政府の役割として、雇用を創出する民間セクターの役割を考慮し、中小企業支援を含め民間セクターの成長を支援すべきであり、労働者に必要な保護を伴う労働市場の柔軟性確保が重要と指摘している<sup>122</sup>。さらに、成長により創出される雇用や恩恵にアクセスできる貧困者の能力が重要な要素であり、雇用や恩恵へのアクセスは、教育や技術等の能力、マイクロファイナンス等の生産資産へのアクセス、社会的規範等、様々な要素によって影響を受けるため、持

<sup>119</sup> WFP (2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic, p.19

<sup>120</sup> Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 – 2014, Paragraph 53

<sup>121</sup> Transparency International (2011) Corruption Perceptions Index 2011, <http://cpi.transparency.org/cpi2011/results/>

<sup>122</sup> ILO (2008) Kyrgyzstan: Economic Growth, Employment and Poverty Reduction, P11, [http://www.ilo.org/public/english/region/eurpro/moscow/info/publ/kyrg\\_econom\\_grow\\_en.pdf](http://www.ilo.org/public/english/region/eurpro/moscow/info/publ/kyrg_econom_grow_en.pdf)

続可能な貧困削減を達成するためには、こうした要素を政策に取り入れる必要があると指摘している<sup>123</sup>。

また、中期開発プログラムでは、労働市場と雇用についても言及しており、ビジネスを開始するためのマイクロ・ローン拡大による雇用創出、地域労働市場で需要のある専門的能力習得のための失業者への研修、山岳部や国境地域の女性や若者の失業者に対する手芸等実用的な研修プログラムの導入、海外での雇用機会拡大を目的とした受入国との労働者の権利、研修施設設置等に関する協定の促進、移住労働者の保険規制や支援基金設立に関する法案策定等の活動を挙げている<sup>124</sup>。

---

<sup>123</sup> Ibid

<sup>124</sup> Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 – 2014, Paragraph 132-22



## 添付 1. 参考文献リスト

外務省(2011) キルギス共和国 基礎データ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kyrgyz/>

外務省 (2009) 対キルギス国別援助計画

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/enjyo/pdfs/kyrgyz\\_0904.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/enjyo/pdfs/kyrgyz_0904.pdf)

ACTED (2011) Employment opportunities for youth in Kyrgyzstan

<http://www.acted.org/en/employment-opportunities-youth-kyrgyzstan>

FAO/WFP (2010) Special Report FAO/WFP Crop and Food Security Assessment Mission to Kyrgyzstan

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp231422.pdf>

Franziska Gassmann (2011), To What Extent Does the Existing Safety Net Protect the Poor?

[http://siteresources.worldbank.org/INTKYRGYZ/Resources/KG\\_Safety\\_Net\\_Changes\\_PSI\\_Aa\\_062811.pdf](http://siteresources.worldbank.org/INTKYRGYZ/Resources/KG_Safety_Net_Changes_PSI_Aa_062811.pdf)

Government of the Kyrgyz Republic (2011) Medium-Term Development Program of the Kyrgyz Republic for 2010 - 2014

ILO (2008) Kyrgyzstan: Economic Growth, Employment and Poverty Reduction, P11,

[http://www.ilo.org/public/english/region/eurpro/moscow/info/publ/kyrg\\_econom\\_grow\\_en.pdf](http://www.ilo.org/public/english/region/eurpro/moscow/info/publ/kyrg_econom_grow_en.pdf)

IOM, Migration and Development in Central Asia, Kyrgyzstan,

[http://www.iom.kz/pubs/Migration%20and%20Developement\\_en.pdf](http://www.iom.kz/pubs/Migration%20and%20Developement_en.pdf)

JICA 研究所 (2011) 国別主要指標 キルギス

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/CentralAsiaCaucasus/Kyrgyz.pdf>

National Bank of the Kyrgyz Republic (2011) Remittances of individuals made through the money transfer system

<http://www.nbkr.kg/index1.jsp?item=1785&lang=ENG>

Transparency International (2011)

<http://cpi.transparency.org/cpi2011/results/>

UNDP (2011) Kyrgyzstan, Country Profile: Human Development Indicators

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/KGZ.htm>

UNDP (2010) Second MDG Progress Report in the Kyrgyz Republic (revised),

<http://www.undp.kg/en/resources/e-library/article/28-e-library/1405-vtoroj-otchet-o-progress-e-v-dostijenii-crt-v-kr-dopolennyj>

UNDP (2009,2010), Kyrgyzstan National Human Development Report: Successful Youth - Successful Country

[http://hdr.undp.org/xmlsearch/reportSearch?v=\\*%&c=n%3AKyrgyzstan&t=\\*%&lang=en&k=&orderby=year](http://hdr.undp.org/xmlsearch/reportSearch?v=*%&c=n%3AKyrgyzstan&t=*%&lang=en&k=&orderby=year)

UNICEF, The State of the World's Children 2011,

<http://www.unicef.org/sowc2011/statistics.php>

UNOCHA,

[http://www.ocha.kz/index.php?option=com\\_content&view=article&id=272&Itemid=83&lang=en](http://www.ocha.kz/index.php?option=com_content&view=article&id=272&Itemid=83&lang=en)

WFP (2008) Kyrgyzstan - Food Security Analysis: Integrated Household Survey 2006, 2007 and 1st Quarter of 2008,

<http://www.wfp.org/content/kyrgyzstan-food-security-analysis-integrated-household-survey-november-2008>

WFP (2011) Follow-Up Emergency Food Security Assessment in the Kyrgyz Republic

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp235564.pdf>

WHO (2006) Highlights on health in Kyrgyzstan 2005

[http://www.euro.who.int/\\_data/assets/pdf\\_file/0008/103211/e88739.pdf](http://www.euro.who.int/_data/assets/pdf_file/0008/103211/e88739.pdf)

World Bank (2011) Interim Strategy Note for the Kyrgyz Republic for the period FY12-FY13,

<http://www-wds.worldbank.org/servlet/main?menuPK=64187510&pagePK=64193027&piPK>

[=64187937&theSitePK=523679&entityID=000333038\\_20110714001702](#)

World Bank (2007), Kyrgyz Republic: Poverty Assessment Volume 2: Labor Market Dimensions of Poverty

[http://siteresources.worldbank.org/ECAEXT/Resources/publications/454763-1191958320976/Poverty\\_assessment\\_Vol2.pdf](http://siteresources.worldbank.org/ECAEXT/Resources/publications/454763-1191958320976/Poverty_assessment_Vol2.pdf)

World Bank (2007) Kyrgyz Republic: Poverty Reduction Strategy Paper – Country Development Strategy (2007 - 2010)

<http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Kyrgyzstan/PRSP/Kyrgyzstan%20PRSP%202007-2010.pdf>

World Bank (2011) Project Paper on a National Road Rehabilitation (Osh - Batken - Isfana) Project, P27,

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2011/06/10/000333037\\_20110610004706/Rendered/PDF/612620PJPR0P120e0only0900BOX361483B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2011/06/10/000333037_20110610004706/Rendered/PDF/612620PJPR0P120e0only0900BOX361483B.pdf)

World Bank (2011), The Kyrgyz Republic Profile and Dynamics of Poverty and Inequality, 2009,

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2011/10/24/000333037\\_20111024001412/Rendered/PDF/650680ESW0P1220equality00200900ENG0.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2011/10/24/000333037_20111024001412/Rendered/PDF/650680ESW0P1220equality00200900ENG0.pdf)

地図

Nationsonline.org (2011)

<http://www.nationsonline.org/oneworld/map/kyrgyzstan-political-map.htm>

University of Texas at Austin

<http://www.lib.utexas.edu/maps/kyrgyzstan.html>

World Bank

<http://maps.worldbank.org/eca/kyrgyz-republic>

## 添付 2. 主要な情報源リスト

### キルギス共和国

政府 <http://www.gov.kg/>

財務省 <http://www.minfin.kg/>

中央銀行 <http://www.nbkr.kg/index.jsp?lang=ENG>

### 国際機関

国連開発グループ 国別チーム キルギス

<http://www.undg.org/unct.cfm?module=CoordinationProfile&page=Country&CountryID=KYR>

世界銀行 キルギス共和国

<http://www.worldbank.org/kg/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/ECAEXT/KYRGYZEXT/N/0,,menuPK:305766~pagePK:141159~piPK:141110~theSitePK:305761,00.html>

UNDP キルギス共和国 <http://www.undp.kg/>

アジア開発銀行 キルギス共和国 <http://beta.adb.org/countries/kyrgyz-republic/main>

### 貧困データ

世界銀行データ <http://data.worldbank.org/country/kyrgyz-republic>

国連公式 MDG データ <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>

UNDP 人間開発指標 キルギス共和国

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/KGZ.html>